

平成 29（2017）年度
商店街創生支援プロジェクト事業
（協同組合東舞鶴商店街連盟）
報告書

平成 30（2018）年 3 月

特定非営利活動法人 M C A

目次

| | |
|---------------------------------------|----|
| 第1章 商店街創生支援プロジェクト事業について | 2 |
| 1、概要 | 2 |
| 2、「商店街創生プラン」について | 2 |
| 第2章 事業の実施状況 | 4 |
| 1、担い手の確保・育成に向けた取り組み～まちづくり会社の検討～ | 4 |
| 2、現在取り組む観光等でのサービスの充実 | 22 |
| 3、個店の活性化と住民サービスの向上 | 25 |
| 4、新たな事業モデルの検討 | 26 |
| 5、ハード整備の方向性の検討 | 28 |
| 参考資料（委員会の記録） | 31 |
| （1）第1回委員会 | 31 |
| （2）第2回委員会 | 35 |
| （3）第3回委員会 | 42 |
| （4）第4回委員会 | 47 |
| （5）第5回委員会 | 48 |
| （6）第6回委員会 | 52 |
| （7）第7回委員会 | 55 |

第1章 商店街創生支援プロジェクト事業について

1、概要

(1) 趣旨

京都府内商店街のうち、商店街が有する特性や歴史等を踏まえて商店街自らが設定した重点テーマに対し、活性化モデルを創出できる可能性がある商店街として、先に公募し選定した商店街（「創生商店街」）において、民間企業やソーシャルビジネス団体、特定非営利活動法人など外部の力を導入しながら、「商店街創生プラン」の策定やプランに基づく事業展開など、商店街の振興につながるモデル事業を実施する。

(2) 対象となる創生商店街

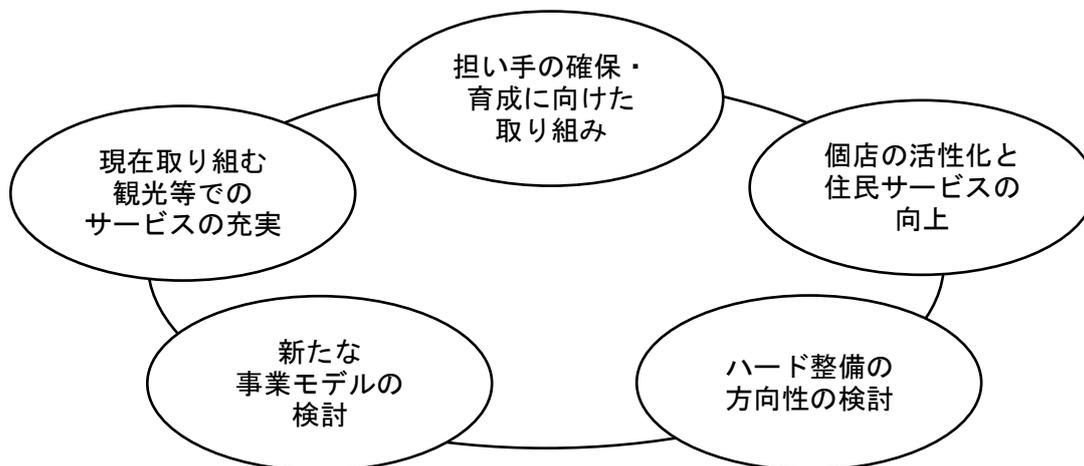
協同組合東舞鶴商店街連盟（舞鶴市）

(3) 重点テーマ

海軍御用達商店街やクルーズ船寄港などの資源を活かし、国内外の観光客を温かいおもてなしで受け入れる、国際観光都市の基盤となる商店街づくりを目指す。

2、「商店街創生プラン」について

昨年度に実施した「商店街創生支援プロジェクト」における論議を踏まえ、以下のプランを作成した。



(1) 担い手の確保・育成に向けた取り組み

昨年度に実施された全4回の会議においては、「商店街創生プラン」の策定にむけて様々なアイデアが出されたが、いずれにおいても誰がそれらの事業を担うのかという問題が指摘された。既存事業者、新規参入者など多様な担い手を想定することができるが、人材確保・育成にむけて、具体的な取り組みを行っていく。

(2) 現在取り組む観光等でのサービスの充実

赤れんがパークや引揚記念館などへの観光客に加え、「艦隊これくしょん」関連イベントへの参加者が増加している現状を踏まえ、他都市からの来街者を商店街に誘導するための方策を「海軍」をキーワードに展開する。同時に、海外からの観光客・留学生などを見込んだ環境を整備する。

(3) 個店の活性化と住民サービスの向上

商店街に顧客を誘導するためには、魅力的な店舗づくりは欠かせない。観光客など他都市からの来街者に対しては、「海軍」をキーワードにした個々のサービスを拡充していく。住民に対しては、リンクカードの活用を軸とした地域向けサービスの充実に努めていく。

(4) 新たな事業モデルの検討

「商店街創生プラン」を実施していくにあたり、いくつかの事業をモデル的に立ち上げる。この成否を踏まえ、次なる事業展開を検討する。具体的には、民泊・ゲストハウス事業を具体化していく中で、プラン実現に向けての課題等を検証していく。

(5) ハード整備の方向性の検討

舞鶴における集客施設が海沿いに立地する現状を踏まえ、観光客はもちろん地域住民を街中に誘導するためのハード整備のあり方を検討していく。市の関係部局を始め、地域住民の意見を踏まえ、比較的長期のスケジュールで検討を重ねていく。

第2章 事業の実施状況

1、担い手の確保・育成に向けた取り組み～まちづくり会社の検討～

(現状認識)

○まちづくりの担い手であるNPO法人MCAは、現状ソフト事業の企画立案及び事業実施を担っている。今年度は、将来的に必要となる、都市整備事業など、ハード事業のマネジメントまで含めた「まち全体」のトータルなマネジメントが求められるなか、まちづくり会社設立について議論を行った。

(事例)

○京都府小西氏から、「商店街を核とした、まちづくり会社の事例」として、

- 1) 白川まちづくり会社(古川町商店街)
- 2) 福知山フロント株式会社(福知山駅正面通り商店街)
- 3) 笠置まちづくり株式会社(笠置駅正面通商店街)

について報告があった。

1) 白川まちづくり会社

◆所在地：京都市東山区古川町 546 番地の1 「古川趣蔵」内

◆役員：代表取締役社長 藤村 洋平氏(古川町商店街振興組合 理事長)
代表取締役副社長 鈴木 淳之氏(白川まちづくり協議会 副会長、支援団体(株)デコス)

取締役 西垣 保男氏(元 株式会社タイトー 代表取締役)

監査役 三角 浩史氏(元 京都中央信用金庫 副理事長)

◆資本金：1,705万円(地元(商店街、自治連合会、住民等)685万円、金融機関420万円、企業600万円)

◆設立日：2017年7月6日

◆主な事業内容

○21世紀型幸せコミュニティ創生事業

・地域コミュニティの再生と創造、高齢者・おひとり様のコミュニティの場づくり、コミュニティ活性化イベント開催、健康づくりの場の提供など

○古川町商店街活性化事業

・商店街ブランドづくり、インバウンド対応事業、新店舗の誘致、自社物件の確保と自主運営店舗の実現、広域イベントの開催、事業承継塾・起業家塾の開催など

○体験型コンテンツ開発事業

・職人のリスペクト化と職人の技体験、エリアの魅力発見コンテンツ、料理教室などの実施、ワークショップの開発と情報発信、CtoC体験モデルの開発など

○町家ゲストハウス運営事業

・空き家問題の解決、自社開発ゲストハウス建築・運営、既存ゲストハウスの運営受託、

宿泊エリア内回遊の仕組みづくりなど

2) 福知山フロント株式会社<福知山駅正面通り商店街>

- ◆所在地：福知山市末広町 1-15 4F (株福知堂内)
- ◆役員：代表取締役 秋山 保彦氏 (福知山駅正面通商店街振興組合 専務理事)
取締役会長 人見 茂 氏 (福知山駅正面通商店街振興組合 理事長)
事業開発部長 岸本 道德氏 ((有)HEADFOOT 代表取締役、新規出店のゲストハウス運営)
インバウンド観光部長 杉本 潤明氏 (三恵観光(株)代表取締役)
デザイン部長兼事務局長 奥田友昭氏 (株福知堂 代表取締役)
- ◆資本金：260 万円 (秋山代表取締役 100 万円、人見取締役会長 100 万円、商店街振興組合 30 万円、商工会若手有志 6 人×5 万円)
- ◆設立日：2015 年 12 月 9 日
- ◆主な事業内容
 - 空き店舗を活用したテナントミックス事業
 - ・2016 年度：2 店舗 (焼肉屋、ゲストハウス) 開業済、2017 年度：1 店舗 (ラーメン屋) 開業決定
 - ・2017 年 7 月、空店舗見学会&事業説明会開催。今後、うどん屋、ケーキ屋などが出店予定。日替わり店長の店、観光客等にニーズの高いカフェ、バー等の誘致も検討
 - 「街なみ環境整備事業」「街づくり協定」を活用した統一感のある景観づくり
 - パワーブロガー等による情報発信、台湾のマスコミや旅行社等へのプロモーション、体験ツアー企画など、インバウンド等誘客プログラムの推進
 - 地域の賑わいづくり等のためのイベント開催 (肉のまちイベント等)
 - 魅力的な個店や観光資源を紹介するリーフレット・HP 制作
 - 駅前の大規模な低利用地活用に向けた協議・調整 ほか

3) 笠置まちづくり株式会社<笠置駅正面通商店街>

- ◆ 所在地：笠置町役場 (企画観光課内 ※地域おこし協力隊 2 名等が主に従事)
※空き店舗を活用して、2017 年中に別途事務局設置予定
- ◆役員：取締役社長 有田香津子氏 (出資者、元笠置町立笠置保育所長)
取締役 北川一美氏 (出資者、元保育士)
取締役 青柳良明氏 (笠置町副町長)
- ◆資本金：220 万円 (笠置町 50 万円、笠置町商工会 20 万円、(一社) 観光笠置 20 万円、商工会長・商工会副会長・観光笠置会長・観光笠置副会長 各 10 万円、公募による町民等からの出資 9 万円×10 万円)
- ◆設立日：2016 年 8 月 25 日

◆主な事業内容

○笠置駅舎を活用した集客力のある店舗の開設・運営

・テナント貸し：女性2名の共同経営。カフェ、ネイルサロン、服飾雑貨

・直営：観光案内、京都市以外では初出店となる「京三条駿河屋」の商品の委託販売受託

○空き店舗・空き家を活用したテナントミックス事業

・空き店舗実態調査、チャレンジショップ開設など

○笠置町の魅力や各種情報の発信（HP 開設等）

○特産品・ブランド開発及び販路開拓 など

(参考)

4. 町家ゲストハウス運営事業

運営受託事業



現在営業中のゲストハウス、すでに建築をはじめているゲストハウスなどの運営をおこなう事業。個別で運営しているゲストハウスをネットワーク化することで新しい観光イノベーションを創造する

年間5棟

特徴

1. 一棟貸ゲストハウスIoTシステムの導入

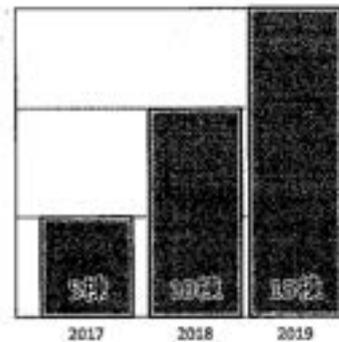
- ・オーナーの満足度を高める
- ・運営の効率化
- ・近隣住民への安心・信頼の提供

2. エリアにベースステーションを設置

- ・宿泊客の一括管理
(鍵の受け渡し、パスポートコピー、宿泊者名簿の記入など)
- ・かけつけサービス
- ・ゲストハウスへの道案内

3. ゲストハウスのネットワーク化

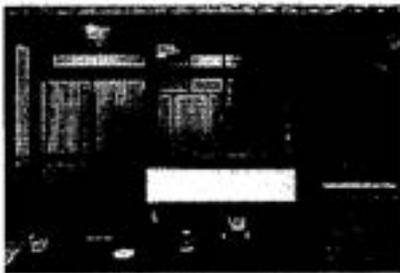
- ・エリア内割引クーポンの発行
- ・エリア内イベント情報の発信
- ・旅行会社からの送客



Shirakawa community building corporation 2017

56

柚之木庵



現在、3か所の一棟貸ゲストハウスの運営受託予定。

梅之木庵



57

Shirakawa community building corporation 2017

白川エリアの旅館・ゲストハウス



町家ゲストハウス
自主運営



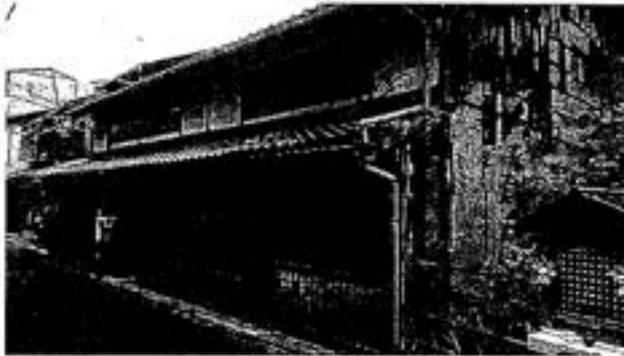
空き家をリノベーションし、町家ゲストハウスを自主経営

年間1棟

特徴

1. 白川エリアにマッチした外観と京モダンを取り入れたインテリア
2. エリア内での各種サービスクーポン券など提供
3. ワークショップの開催や地域情報の提供
4. 地域のコミュニティセンターとしても使用





氏邸

白川エリアのシンボルともなる
優良物件。大家さんと半年間
交渉し、来年オープンを目指して
いる。

組織

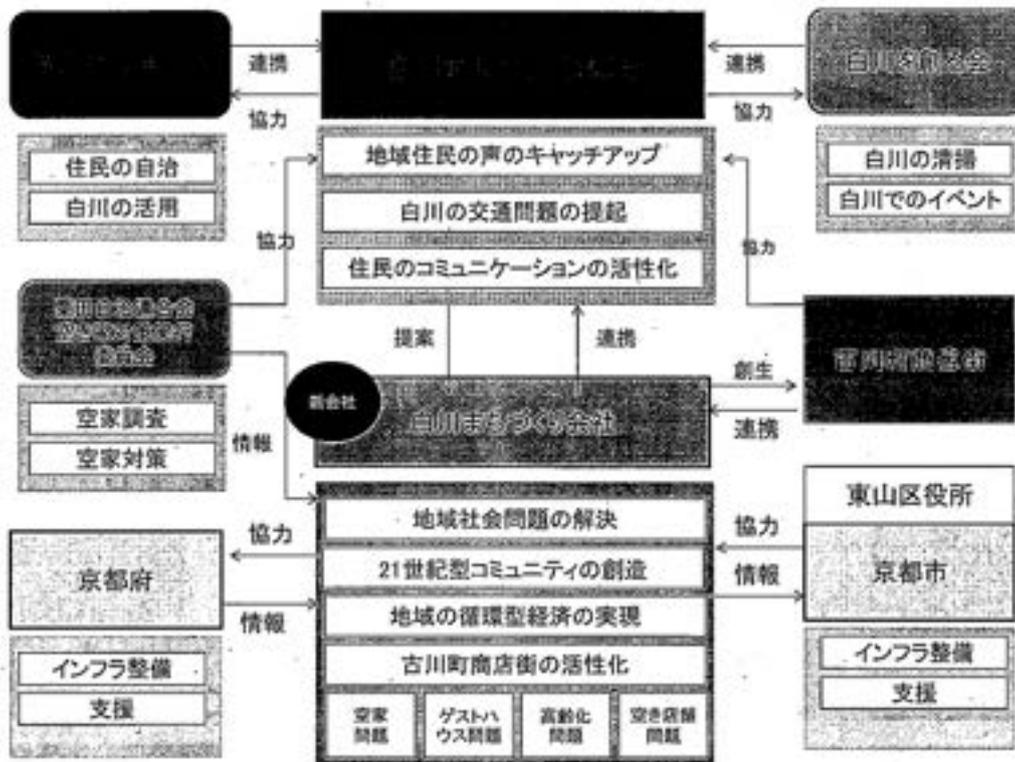
白川まちづくり会社 組織・人員(案)



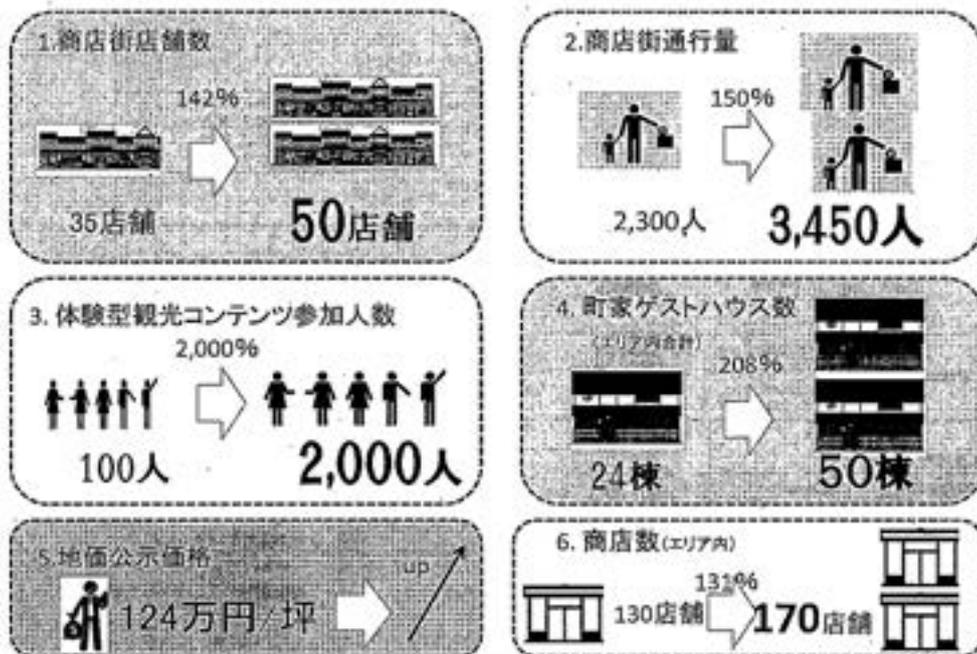
人員体制

| | | | | | |
|------|----------|-------|----------|-------------------|---------------|
| 事業主幹 | 鈴木 尚子 | 藤村 洋平 | 空閑 絹子 | 鈴木 淳之 | (京都中央信用金庫法向者) |
| 担当 | (パート採用者) | 鈴木 淳之 | (パート採用者) | 赤崎 盛久 (パート採用者) | 鈴木 淳之 |

社外 (ボランティア) アルバイト (ボランティア) 森川 智己 坂田 実



白川界隈の目指す指標(3年後)



株式及び役員構成

株主構成

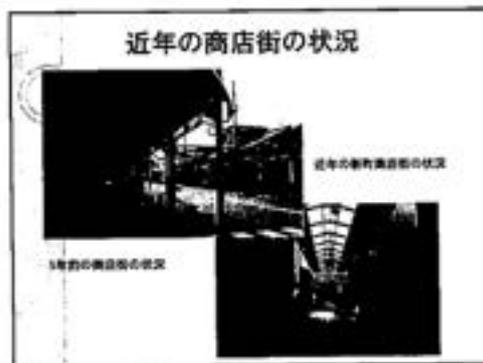
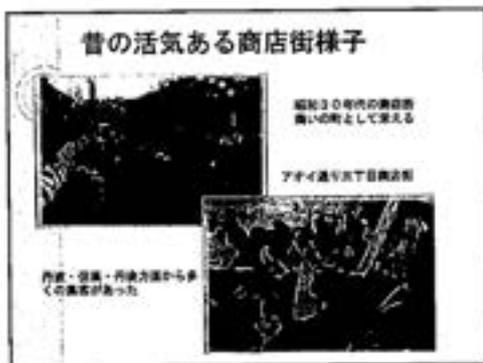
| | | | |
|------------|--------|------|------|
| 福岡山手 | 1,000株 | 伊藤商事 | 100株 |
| 広小橋ナントリックス | 1,000株 | 福岡山手 | 100株 |
| 伊藤商事 | 1,000株 | 伊藤商事 | 100株 |
| アイイ通り | 100株 | 伊藤商事 | 100株 |
| アイイ通り | 100株 | 伊藤商事 | 100株 |
| 伊藤商事 | 100株 | 伊藤商事 | 100株 |
| 伊藤商事 | 100株 | 伊藤商事 | 100株 |
| 伊藤商事 | 100株 | 伊藤商事 | 100株 |

役員構成

| | | | |
|-------|----|-----|----|
| 代表取締役 | 1名 | 取締役 | 1名 |
| 取締役 | 1名 | 監査役 | 1名 |



- ### まちづくり会社の取り組み
- ・ 福岡山手地区のまちづくり推進事業（ゆらぎのガーデンの店舗）
 - ・ 広小橋ナントリックス事業（広小橋1店舗）
 - ・ 伊藤商事の店舗ストックバンク事業
 - ・ 若人チャレンジ事業
 - ・ 福岡山手地区のまちづくり推進事業





4つの主要プロジェクト

- お城周辺賑わいプロジェクト**
 中心市街地活性化を推進する拠点として城周辺・市民プール周辺を中心としたエリアを重点的に、中心市街地活性化への波及効果をもたらすことを目指しています。
- 町並み・町家活用プロジェクト**
 福知山のシンボルである城下町並みから近郊部につながる沿道沿河沿川の町並みや町家・町屋の活用を促進し、観光ルート整備を行う。
- まちなかおもてなしプロジェクト**
 福知山の地域資源を活かした情報発信、イベント開催、グッズ制作などを行い、コミュニティの育成、まちなかの魅力を高めて、観光客の増加につなげる。
- まちなか居住促進プロジェクト**
 まちなかの居住環境に必要なお客づくりや生活支援の場をつくるために、地域の集約や、自治体への働きかけ、事業コーディネート等を行う。



4つの主要プロジェクト (第2期)

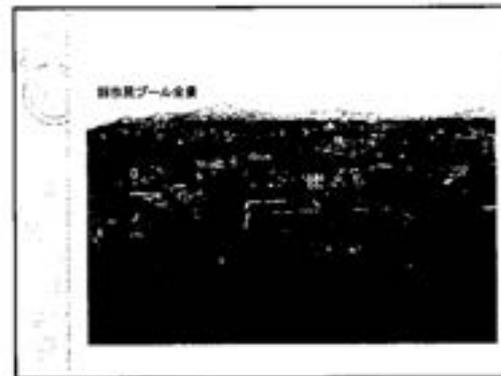
4つの主要プロジェクトの4年を定めています

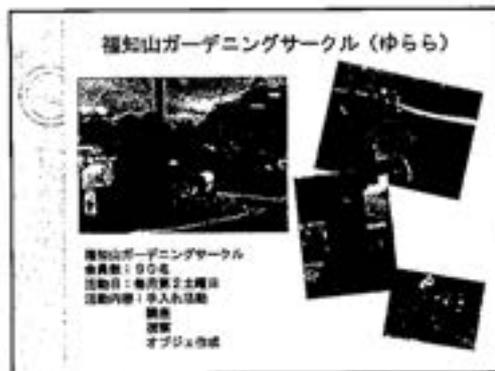
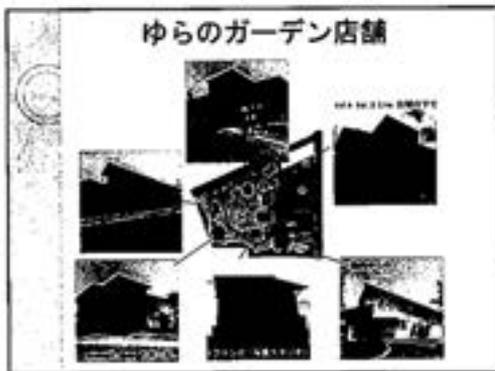
福知山まちづくり株式会社の取り組み



福知山歴史の広場『ゆらのガーデン』の経緯

| 年月日 | 事業内容 |
|------------|-----------------------------|
| 平成22年7月15日 | 福知山歴史公園の創設施設整備事業 |
| 平成22年8月22日 | 福知山歴史公園の創設施設整備事業（ゆらのガーデン） |
| 11月15日 | 福知山歴史公園の創設施設整備事業（ゆらのガーデン） |
| 平成23年1月5日 | 施設整備（11月28日まで） |
| 3月27日 | 福知山歴史公園の創設施設整備事業（ゆらのガーデン） |
| 7月20日 | 「福知山歴史公園の創設施設整備事業（ゆらのガーデン）」 |
| 7月1日～7月20日 | 福知山歴史公園の創設施設整備事業（ゆらのガーデン） |
| 8月1日 | 施設整備（7月20日） |
| 8月15日 | 施設整備（7月20日） |
| 11月1日 | 福知山歴史公園の創設施設整備事業（ゆらのガーデン） |
| 平成24年3月15日 | 福知山歴史公園の創設施設整備事業（ゆらのガーデン） |
| 3月25日 | 施設整備（7月20日） |
| 4月24日 | 福知山歴史公園の創設施設整備事業（ゆらのガーデン） |







事業スケジュール

| | | |
|-------|--------|-------------------------|
| 平成24年 | 2月18日 | 事業説明会 |
| | 2月28日 | 事業説明会(予約制) |
| | 3月15日 | 広小路まち委発付 |
| | 4月9日 | 駅前を中心とした地域再生推進協議会決定事項確認 |
| | 6月2日 | 出店意向決定 |
| | 6月~10月 | 設計・建築監理 |
| | 7月19日 | 事業計画を定める計画認定通知 |
| | 7月25日 | 事業実行計画決定通知 |
| | 8月~ | 実施設計開始 |
| | 11月14日 | 事業計画変更認定通知 |
| | 11月22日 | 事業計画変更承認通知 |
| | 12月6日 | 指名競争入札 |
| | 12月10日 | リニューアル工事準備 |
| 平成25年 | 3月15日 | リニューアル工事開始 |
| | 4月24日 | テナントミックス4店舗オープン |
| | 10月31日 | テナントミックス5店舗オープン |

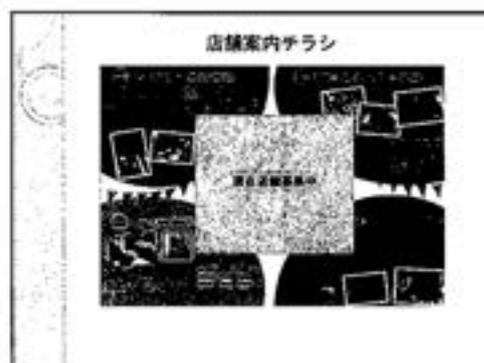
広小路テナントミックス、出店者募集

高層ビル

出店者募集

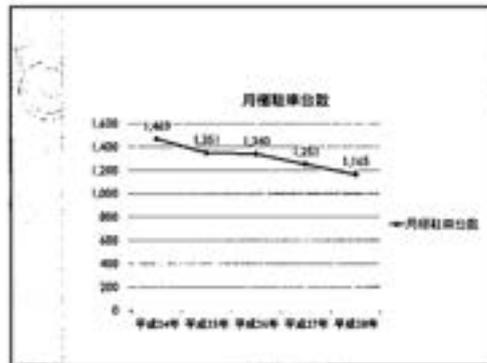
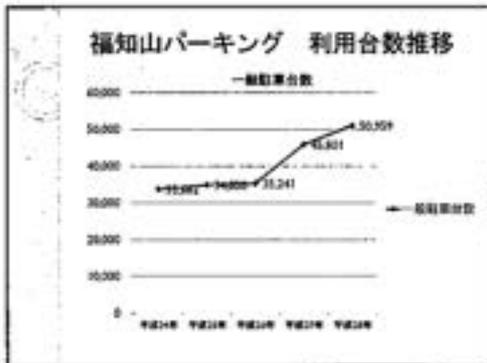
市内新築ビル掲載

応募件数：6件



| 年度 | 一般利用台数 | 一般利用台数 |
|-------|--------|--------|
| 平成24年 | 34,882 | 34,882 |
| 平成25年 | 34,882 | 34,882 |
| 平成26年 | 33,241 | 33,241 |
| 平成27年 | 45,821 | 45,821 |
| 平成28年 | 50,509 | 50,509 |

| 年度 | 月間駐車台数 | 月間駐車台数 |
|-------|--------|--------|
| 平成24年 | 1,403 | 1,403 |
| 平成25年 | 1,351 | 1,351 |
| 平成26年 | 1,340 | 1,340 |
| 平成27年 | 1,267 | 1,267 |
| 平成28年 | 1,165 | 1,165 |



ご清聴ありがとうございました。

(アンケート調査)

『市民が考える東舞鶴中心市街地エリアのミライ』市民アンケート アンケート結果一覧

問1～問4 アンケート全体集計結果

- 男女別集計 : 女性の回答者が6割。
エリア別集計 : 三条東が最も多い。
年齢別集計 : 年代が高くなるほど回答数が多い、一方、50代より40代の方が多い。
在住期間別集計 : 「10年以上」、「生まれた時から」が回答数の大半。
エリア・年齢別集計 : 三条東は、60代が多い。三条東・駅南は30、40代が多い。
エリア・在住期間別集計 : 三条東は「10年以上」より「生まれた時から」が多い。
年齢・在住期間別集計 : 50代以上は、大半が「10年以上」、「生まれた時から」。

問5『東舞鶴で最もよく利用するエリア』

- 全体集計 : 約半数が「東舞鶴駅周辺」。2割が「市役所周辺」「商店街周辺」。
エリア別集計 : 大門北、三条西では「市役所周辺」が多い。
三条東は「商店街周辺」が多い。駅南は「東舞鶴駅周辺」が多い。
年齢別集計 : 50代以下は約6割が「東舞鶴駅周辺」と回答。60代以上は回答が分散。
在住期間別集計 : 「1～5年」「6～10年」は東舞鶴駅周辺の割合が多い

問6『20年後の中心市街地エリアのテーマ』

- 全体集計 : 1位「安心安全・災害対策」2位「買い物などの利便性」3位「健康・寿命」。
エリア別集計 : 大門北では「健康・寿命」が「買い物などの利便性」より多い。
三条西、三条東では「買い物などの利便性」が最多。
駅南では「健康・寿命」が最多。「買い物などの利便性」が少ない。
年齢別集計 : 10代「娯楽施設」、「公共交通機関の充実」が最多。20代「豊かに暮らすための職」最多、「娯楽施設」も多い。30代・40代「子育て・教育」が多い。
50代「安心安全・災害対策」60代以上「健康・寿命」「買い物などの利便性」が多い。
在住期間別集計 : 1～5年「買い物などの利便性」「子育て・教育」が多い。
6年以上「安心安全・災害対策」が多い。
10年以上「健康・寿命」「買い物などの利便性」が多い。

問7・8『舞鶴以外で住んでみたい街とその街の魅力』

- 京都府京都市 : 歴史・文化がある。自然と観光・商業とのバランスが良い。 など
兵庫県神戸市 : コンパクトな都会。イメージが良い。温暖な気候。 など
京都府福知山市 : 活気がある。地方都市としての機能が充実している。公共交通機関が充実している。 など

問9『舞鶴及びその周辺で、気に入っている場所』

前島ふ頭（前島公園）

五老ヶ岳（五老スカイタワー）

赤レンガ倉庫

あそびあむ

など

問10『20年後の東舞鶴に必要なだと感じる場所・施設』

全体集計 : 1位「福祉施設」2位「食料品店」3位「コミュニティスペース」4位「観光地」

エリア別集計 : 大門北では「観光地」より「飲食店」が多い。三条西では「福祉施設」が最多。

三条東では「食料品店」が最多で「日用品店」も多い。駅南では「観光地」が多い。

年齢別集計 : 10代は「映画館」が最多。20代は「映画館」「食料品店」が最多。

30代は「観光地」が最多、「衣料品店」も多い。40代以上「福祉施設」が最多。

40代50代は「コミュニティスペース」も多い。

60代70代は「食料品店」が多い。

在住期間別集計 : 1～5年は「食料品店」が最多。6年以上は「福祉施設」が最多。

6～10年は「カフェ」「衣料品店」も多い。

10年以上・生まれた時から「食料品店」も多い。

問11『現在の東舞鶴に必要なだと感じる場所・施設』

全体集計 : 1位「福祉施設」2位「食料品店」3位「観光地」4位「コミュニティスペース」

問10に比べ、「飲食店」「カフェ」も増えている。

エリア別集計 : 大門北では「福祉施設」が最多。「カフェ」「飲食店」も多い。三条西、三条東では「食料品店」が最多。三条東では「カフェ」「日用品店」も多い。駅南では「観光地」が最多。

年齢別集計 : 10代は「観光地」が最多。20代は「映画館」が最多。30代は「カフェ」が最多。「観光地」

「飲食店」も多い。40代は「福祉施設」が最多。「読書・勉強ができるスペース」も多い。

50代は「コミュニティスペース」「観光地」が最多。60代70代は「食料品店」が最多。

在住期間別集計 : 1～5年は「飲食店」「衣料品店」が最多。6～10年は「飲食店」「カフェ」が最多。

10年以上、「食料品店」が最多。生まれた時から「福祉施設」が最多。

問 12 『あれば参加したいイベント』

- 全体集計 : 1位「舞鶴の歴史・文化系」2位「スポーツ系」3位「ものづくり系」
エリア別集計 : 駅南では「スポーツ系」が最多。「舞鶴の歴史・文科系」は少ない
年齢別集計 : 10代「スポーツ系」が最多。20代「子育て系」「スポーツ系」が最多。
30代40代「スポーツ系」が最多。「子育て系」「ものづくり系」も多い。
50代以上「舞鶴の歴史・文科系」が最多
在住期間別集計 : 1～5年は「子育て系」「スポーツ系」が最多。6～10年は「子育て系」が
最多。「スポーツ系」
「ものづくり系」も多い。10年以上は「舞鶴の歴史・文科系」が多い

問 13 『まちづくりに対してどのような協力ができるか』

- 参加 : イベント参加、あいさつをする、高齢者とコミュニケーションを増やす など
実行 : イベント立案、イベント主催、まちの語り部 など
支援 : イベント出資、投資、情報発信・共有、イベント告知 など
奉仕作業 : 草刈り、清掃活動、休日のボランティア活動 など
その他 : 乳幼児の見守り、舞鶴に魅力がない など

舞鶴高専尾上研究室 尾上亮介 足立輝人

2、現在取り組む観光等でのサービスの充実

(1) おみやげ館

2月17日に海軍御用達おみやげ館を改装し、「海軍御用達お土産館&どこでもギャラリー」としてリニューアルオープンした。オープン2日間の入場者は、2月17日150人、2月18日350人だった。



▲オープンを伝える新聞記事（「舞鶴市民新聞」2018年2月23日）



▲外観



▲店内



▲ギャラリー



▲新しくできたお土産用お菓子

会場 どこでもギャラリー (清軍服用道おみやげ館アンテナショップ内)
 主催：京都市・舞鶴工業高等専門学校 共催：(協)東舞鶴商店街連盟・NPO法人 MCA

舞鶴軍艦通りキャラクター化プロジェクトに参加せよ!

軍艦通りキャラクター絵を募集!
 舞鶴軍艦通りをモチーフにしたキャラクターのイラストを募集します。イラストのサイズは縦横10cm×10cmです。イラストのテーマは自由です。イラストの応募期間は2024年10月15日までです。

渡辺武尊のキャラ絵を描こう ワークショップ
 日時：2024年 10月15日(土) 10:00~12:00
 2024年 10月16日(日) 10:00~12:00

キャラクターグッズを募集!
 舞鶴軍艦通りをモチーフにしたキャラクターグッズのアイデアを募集します。アイデアの応募期間は2024年10月15日までです。

軍艦通りを盛り上げる企画を募集!
 舞鶴軍艦通りを盛り上げるための企画を募集します。企画の応募期間は2024年10月15日までです。

君の企画で舞鶴の地域活性化に参加せよ! キャラ絵、グッズ、盛り上げ企画を待っている!

必見! 軍史の残された秘蔵物! 初公開!

幸か、不幸か、舞鶴には舞鶴に秘蔵されている。...

舞鶴市立舞鶴公園の歴史資料館、110号館の展示を見逃さないでください。

舞鶴市立舞鶴公園の歴史資料館、110号館の展示を見逃さないでください。

舞鶴市立舞鶴公園の歴史資料館、110号館の展示を見逃さないでください。

舞鶴市立舞鶴公園の歴史資料館、110号館の展示を見逃さないでください。

▲どこでもギャラリーのチラシ

(2) ICOMOS

- ユネスコの諮問機関として世界遺産登録にかかわるイコモスの「日本イコモス国内委員会」は、著名な建築家以外の 20 世紀遺産の多様性に光を当てる目的で、「日本の 20 世紀遺産 20 選」を選定した。
- この中で「舞鶴の海軍施設と都市計画／生き続ける軍の格子状街路と赤煉瓦の施設群」が選定された。
- 次年度以降は ICOMOS の選定を契機に、地域を巻き込んだ事業の企画立案を進めていくことを検討する。



3、個店の活性化と住民サービスの向上

- 個店の活性化と住民サービスについては、観光面での経済効果が地域に好インパクトを及ぼしていると評価する意見がある一方で、住民利便性の面からもスーパーマーケットの立地を望む意見が根強いとの指摘もあった。
- こうしたことから国の事業を活用しつつ、スーパーマーケットの立地に向けた取り組みを次年度以降検討することとなった。

4、新たな事業モデルの検討

(1) ホテルの立地

○スーパーホテル事前内申書

東舞鶴地区のまちづくりの一翼を担う、公共性の高い、 商店街内でのビジネスホテルの開業について

(株) スーパーホテル
東舞鶴商店街連盟

今回予定している「スーパーホテル東舞鶴（仮称）」開業については、あらゆる方面（舞鶴市の観光振興、東舞鶴の商店街創生、社会的意義など）で多くの協力ができる拠点になると考えており、運営にあたり精一杯の努力を考えております。「まちづくり」「公共有用性」「社会貢献」をしっかりと考えた事業です。何卒ご支援の程、よろしくお願ひいたします。

【概要】

- ホテル名：スーパーホテル東舞鶴（仮称）
- 建設地：京都府舞鶴市字浜小字浜 419 番地（八島商店街内 モナコ会館（閉館）跡）
- 主要用途：ビジネスホテル
- 工事種別：新築
- 規模等：鉄筋コンクリート造 地上 10 階建
客室:100 室
- 建設者：マルケイ 神田義久

【観光視点から考える「スーパーホテル東舞鶴（仮称）」】

- ① 京都を訪れる外国人の増加に伴い、東アジア諸国からの旅行者は、海の玄関口である「舞鶴」からの入国が増加の一途を辿っています。そんな現況の中で、「舞鶴」での宿泊施設の増加は、京都府全体のホテル不足の改善にも寄与できるのではないかと考えます。
- ② 2020 年東京オリンピック開催に伴い、増加する東アジア諸国からの観光客を少しでも多く京都市内観光に導くためにも、東アジアからの観光客にまず「舞鶴」で 1 泊していただくことは重要であり、そのためにもホテルを増やすことは不可欠と考えます。
- ③ 東アジア諸国の人達に手軽に京都旅行を楽しんでもらうためにも、船のツアーは不可欠です。深夜到着した観光客が京都市内観光に行く前泊として、また、京都市内観光を終え翌日早朝に帰国する人達の後泊として、「舞鶴」のホテル利用は需要が増えると考えます。
- ④ クルーズ豪華客船寄港の際の舞鶴市内観光の交通手段の 1 つとして、自転車（レンタルサイクル）の需要増加が見込まれます。外国人にも認識しやすく目立つビジネスホテルは、自転車のレンタル拠点としても利用価値が高く、当ホテルも全面的に協力していきます。

【商店街創生視点から考える「スーパーホテル東舞鶴（仮称）」】

- ① 年間平均稼働率が 90%近いスーパーホテルならではの集客力により、開業地である東舞鶴の商店街には毎日約 100 人の市外からの観光客やビジネス客の集客が見込まれます。このことにより、商店街及び商店街近隣の物販店、飲食店などの利用が増加すると考え

ます。

- ② 商店街内に「スーパーホテル東舞鶴（仮称）」があることがインセンティブとなり、新たに商店街内等に店舗をオープンしようとする人が増える可能性が高まります。シャッター商店街を生き返らせる一つのチャンスになると考えます。
- ③ 現在、東舞鶴商店街は夜の8時を過ぎると極端に人通りが減少し、営業している店舗も少ないため、歩行・自転車通行が困難なほど暗い商店街となっています。深夜まで営業しているビジネスホテルの開業は、商店街の夜間の明るさの改善につながり、深夜でも人が通りやすく、安心安全な商店街づくりにも役立つものと考えます。
- ④ 東舞鶴地区まちづくりのコンセプトにある「地域の力を引き出す拠点」として、「八島公園」が再編整備されますが、その公園の東隣に当「スーパーホテル東舞鶴（仮称）」が開業します。「八島公園」とも連携して、地域活性化の中核となるものと考えます。

【ビジネス視点から考える「スーパーホテル東舞鶴（仮称）」】

- ① 京丹後市にある米軍基地に来る米兵は、京丹後市から程良く近く、繁華街のある「舞鶴」に宿泊を希望する人が多いと聞いています。海外でも有名なスーパーホテルを利用する可能性は非常に高く、国際色豊かなまちづくりにも役立つと考えます。
- ② 高浜原子力発電所の再稼働により、出張者が増加しており、高浜では客室が足りない状況と聞いています。舞鶴にビジネスホテルが増えることは、公共性の高い発電事業にも協力できるとともに、客室の不足解消にも貢献できると考えます。
- ③ 海上自衛隊のある舞鶴は、北朝鮮問題、安全で安心なオリンピック開催など今後の国家防衛戦略の大切な要所であり、海上自衛隊に関係する出張者の増加が想定されます。天然温泉や充実した睡眠グッズ、豪華無料朝食など、健康宿泊を重要テーマにしている当スーパーホテルは、国防に携わる方々の健康維持にも貢献できると考えます。

（２）無人島サバイバルゲーム企画

- 無人島である「戸島」（通称：ポンポコ島）は、多くの市民がかつてキャンプなどをした経験を有する思い出ある島である。
- 一方で、インターネットなどディスプレイに頼らない「サバイバルゲーム」は全国でも愛好家が増えており、戸島はその適地として期待する声がでている。
- こうしたことから、戸島における「サバイバルゲーム」化を来年度以降検討することとなった。

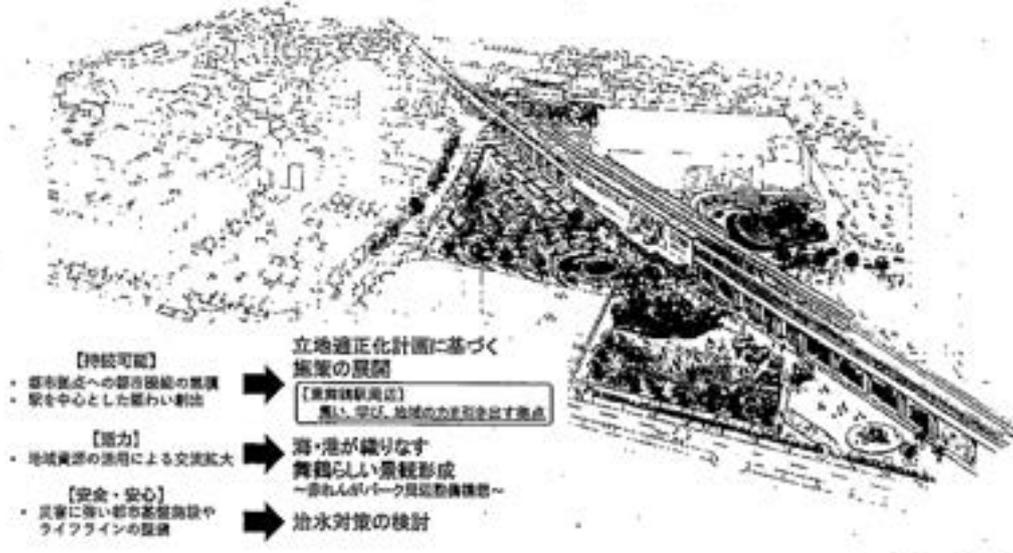
5、ハード整備の方向性の検討

- ハード整備の方向性については、「都市計画マスタープラン」および「立地適正化計画」が今年度に策定された。
- 「都市計画マスタープラン」の中で東地区のまちなかについては、「まちなかの利便化や赤れんが・港を活かした活力の賑わいの演出」を地区の整備目標としている。
- また立地適正化については、「集い、学び、地域の力を引き出す拠点」をまちづくりのコンセプトとしている。

VI 地域のまちづくり方針

東地区のまちなか

地区の整備目標 まちなかの利便性や赤れんが・港を活かした活力と賑わいの演出



出典：舞鶴市都市計画マスタープラン<概要版>

参考資料（委員会の記録）

（1）第1回委員会

日 時：2017年5月1日（月）19:30～21:20

場 所：八島商店街2階（海軍御用達お土産館）

出席者（敬称略）：

（商店街）商店街連盟：伊庭（東商連）、谷川（八島）
吉森（アミューズメント マイケル）

MCA：塩見、松井、土田、尾崎

（行 政）舞鶴市：竹山（観光商業課）

京都府：小西、神崎（商業・経営支援課）、
笹田、鶴飼、寺島（中丹広域振興局）

（その他）舞鶴高専：尾上

福知山公立大：杉岡

商工会議所：桐村

協働研：与那嶺、片岡（計18人）

配布資料： 資料① 2016年報告書2-3ページ

資料② 2016年報告書46ページ

資料③ 海軍通り33箇所聖地巡礼事業・Web販売Press

資料④ 新聞記事

資料⑤ 都市型防災公園

資料⑥ クルーズ船オプションツアー

京都 Re-Search in 舞鶴2017について

古川町商店街関連資料

<議事内容>

1、前回議事、フォーラム、前年度創生支援プロジェクト事業報告及び事業計画について

- ・ 土田氏から昨年度に実施した事業について説明があった。（資料①）
- ・ 続いて、今年度事業の概要について説明があった。（資料②）

2、新しい参加者紹介

出席者全員から自己紹介があった。

3、事業実施及び進捗状況報告について

○軍艦通り33箇所巡りご朱印帳内容について

○海軍御用達お土産館WEB販売について

土田氏から資料③④にもとづき説明があった。

○お土産開発

松井氏から進捗状況について説明があった。

- ・ 海軍ゆかりに特化したお土産を製作中。ひとつは、京都一夢庵に依頼し、33箇所巡りのスタンプをパッケージに印刷したミニ羊羹を企画している。
- ・ もうひとつは、竹中缶詰との協力で「艦隊これくしょん」と連携した缶詰コレクション「艦これ」を企画すべく準備中。竹中缶詰は海軍の艦船に搭載するための缶詰を製造していた。札所のひとつでもある「長谷川巳之助商店」にヒアリングしたところ、萌えキャラのパッケージにすれば売りやすいとの意見があった。
- ・ 軍艦通り 33 箇所巡りの札所を中心にお土産を活用したオリジナルのストーリーをつくっていただきたいと思っている。将来的には札所を増やしていきたい。
- ・ マイコムに新しく出店するスーパーにもお土産コーナーができる予定。旅行者や市民にとっての拠り所になればと思っている。
- ・ 既存の商品のパッケージを変えるだけでお土産になるので、そのような仕掛けづくりをしていきたい。

○今年の艦これイベント(7月23日)について

松井氏からこれまでの取り組みについて説明があった。

- ・ 今年もイベントにあわせて売店を出店する予定。
- ・ イベントにあわせて出店する若い人たち(20 店舗ぐらい)と連携し、将来的には起業できるような取り組みにつなげていくことも検討していきたい。

○東舞鶴エリアにおける宅配貨物の共配について

土田氏から進捗状況について説明があった。

- ・ 宅配サービスが飽和状態にある中で、商店街の中で宅配貨物の共配システムをつくる計画が進んでいる。まずは5人の若者が午前と午後に各50ケずつ(10ケ/人)、計100ケ/日を配達するところから始める予定。

○ビジネスホテル誘致&伊右衛門カフェ

- ▶ 島田昭彦氏(伊右衛門サロンプロデューサー)ヒアリングについて(土田氏から)
 - ・ いい企画はあるが、きちんとプロデュースしないと実現しない。企画が1ならばプロデュースが5の割合になる。
 - ・ ターゲットを定めて分析し、そのための戦略を立てていく必要がある。
 - ・ 伊右衛門カフェのターゲットは女性客。イケメンのスタッフを揃えることに心掛けた。
 - ・ 注文にもこだわりをもっている。
- ▶ 吉森氏(アミューズメント マイケル)からのコメント
 - ・ 商店街内でパチンコ店(モナコ会館、マルケイ三条店)を運営している。モナコ会館は創業57年となり機械の修復が難しい状況となった。新たにパチンコ店をつくるという選択肢もあったが、商店街と連携したビジネスを展開したいとのオーナーの意向もあってホテル経営をすることになった。ホテル経

営の経験はないので、既存のホテルと話を進めてきた結果、スーパーホテルにきてもらうことになった。

- ・ これまで舞鶴に有名ホテルがなかった理由は、新幹線が通るかどうかが決まっていなかったから。最終的には通らないことになったが、見方は2つに分かれていた。1つは通らない方が宿泊客は増えるというもの、もうひとつは新幹線が通ることで宿泊客が増えるというもの。スーパーホテルは前者だった。新幹線が通ると日帰りの人が増えるというもの。
- ・ 建物を建てた上で貸出をする一括借上方式で、経営は全面的にスーパーホテルに委ねる予定。1階部分は有名な店を入れて商店街のにぎわいづくりに協力したい。
- ・ 商店街の中に新たな場所ができることで、新規出店者が増えたり、既存の店舗が変化したりすることに貢献したいと考えている。

○クルーズ船オプションツアー

土田氏から資料⑥に基づき説明があった。

- ・ 舞鶴港にクルーズ船が停泊したときのオプションツアー。舞鶴市観光ガイドボランティア けやきの会の案内で商店街を訪問された際にお茶とお菓子を出す予定。

4、5条公園及び周辺整備事業に関連した進捗及び情報交換 都市型防災公園の提案

松井／公園それ自体が不要であるとの意見がある中で、まずはその必要性を住民に理解してもらう必要があると思う。そこで「都市型防災公園」として提案してはどうかと考えている。

舞鶴市の計画では、まちなかに居住者を増やすための再開発を検討しているようだが、当方としては、住んでみたいと思える商店街をつくるという方向ではないかと考えている。

竹山／国交省が各自治体で立地適正化計画を作成するという方針を出している。国交省としてはコンパクトシティを作りたいと考えており、交通起点があるところが重要な位置づけとなる。舞鶴市もその方針にもとづいて計画づくりを進めているということだろう。

土田／地域内の利潤の最大化が重要だろう。

スーパーマーケットがマイコムに入ると、会議をする場所がなくなる。地域の集会所を今後どうしていくか、専門家を交えて話し合いをしたい。都市整備の話と同時に、まちのコミュニティ形成についても議論していきたい。

5、今年度事業について

杉岡／昨年に大学関係のキャラクターの羊羹をつくってもらったがとてもよく売れた。ただ少し値段が高い印象があるので、軍艦の羊羹を販売するにあたっては、キャラクターを掲載してターゲットを絞っていく必要があるだろう。

艦これでの売店出店について。昨年、「舞鶴揚げ」を販売したところとても評判がよかった。いかにして付加価値をつけていくかということ。しかし、一過性の取り組み

に終わらないように、ネットワークを日常化していくことが大切であろう。

宅配の共配については、「働き方改革」の議論と連携すると面白いと思う。商店街の皆さんが副業として取り組んだり、若者が担い手になったりということで話題になる。これからは買い物の形が変わってくる。商店街もモノ以外の物をどのように売っていくのかということが問われる。これから自治体・町内会も変わる。小規模多機能自治や小さな拠点の単位で小商いをしていくという中で、宅配もそのひとつになっていくのではないか。コミュニティを紡ぎなおしていく、退職後の小商いにしていく、2番目の名刺をつくっていくといった話に転嫁できたら面白いと思う。

スーパーホテルの進出について。昨年、高知に出張する機会が多かったが、ひろめ市場に行くのと地元の人や観光客でいつも賑わっている。そこには人を吸引するような装置がある。スーパーホテルのような大きな資本と地元が連携して、舞鶴でもそのような場が作れるのではないか。

お土産について。遅い時間まで販売する場がつかれないか。

尾崎／ホテルで売れるのではないか。

杉岡／MCA は、まちづくり Think&do tank だろう。このような団体に地域の皆さんがいち住民として関わっていく開かれた場になっていくという方向性が見えてきたと思う。これからも引き続き伴走していきたい。

尾上／ハード整備については、これまでは民間が入ってくることもあったが、これからは市が主導した地道な作業になっていく。補助金のこともあって国の方針に基づいて動いているところもあるだろう。ただし、コンパクトシティの話は大きくは間違っていない。問題なのは、どこを中心に据えるかということ。これまでは公園を中心にしようとしていたが、人口の減り方が急激ということもあってそれがずれているのだろう。商店街は商店街として生き残り方があると思う。都市全体の中でどのような位置づけにしていくのか、柔軟に受け止められる有り様が大切なのではないだろうか。

松井／これまでは五条公園を中心に考えていたので、それがどのように変わるのか。ただし、商売をする人にとってはどこでやろうと、やり方ひとつだろう。うまく立ち回っていけると思う。

尾上／ハード整備は動いていくので、いまやっているイベントなどをうまくリンクさせていければいいのではないだろうか。

土田／昨年度、MCA で赤れんが5号館でお化け屋敷を実施した。夏休みにはクルーズ船も入ってくることもあって、市としては昨年同様に赤れんがで開催したい意向があるが予算がないとのこと。そこで今年はモナコ会館で実施できないか検討中。

6、その他

当日の配布資料に基づき、京都府から次の点について紹介があった。

- ・ 古川商店街振興組合から舞鶴への研修旅行（7月9日実施予定）
- ・ 「京都 Re-Serrch in 舞鶴 2017」について

最後に、谷川氏からコメントがあり本会を終了した。

(2) 第2回委員会

「地域創生×商店街×大学フォーラム 舞鶴×商店街 地域創生の未来図をどうする！」

主催：舞鶴商工会議所、協同組合東舞鶴商店街連盟、特定非営利活動法人 MCA

1、概要

日 時：2017年6月5日（月）19:00～21:00

場 所：舞鶴商工会議所ホール（3F）

プログラム：

<第1部>

商店街創生プロジェクト事業報告及び事業計画

<第2部>

基調講演「『三方よし』を実現する仕組みを作る」

講師：島田昭彦氏（地域活性化プロデューサー、京都観光おもてなし大使、
（株）クリップ代表取締役）

コーディネーター：杉岡秀紀氏（福知山公立大学地域経営学部准教授）

2、フォーラムの内容

開会にあつて本事業を主幹する京都府を代表し、小西葉子氏（商店街創生センター事務局長、京都府商工労働観光部商業・経営支援課商業活性化担当課長）から挨拶があつた。

<第1部>

商店街創生プロジェクト事業報告及び事業計画

報告：土田幸正（特定非営利活動法人 MCA 事務局長）

(1) 商店街創生プロジェクト事業について（略）

(2) 2016年度事業報告

- 海軍コンテンツを活用したお土産品の開発
- 軍艦通りキャラクターの設定と活用
- 勉強会（フォーラム）の開催
- 観光情報の発信
 - 海軍グルメMAPの作成（艦これイベント他にて配布）
 - 舞鶴鎮守府ARラリーの実施
 - 軍艦通り三十三所巡りの準備
- 他事業との連携
 - Wifi機器の設置
 - お土産品WEB販売の開始
 - マイコム1階部分のスーパーの誘致
- その他の活動

- 赤れんがパーク迷宮アドベンチャー
- 赤れんがライトアート in 舞鶴 2016 「星のサーカス」
- 八島にぎわい日曜日【Mon Reve Porta】(モン・レーブ・ポルタ) の開催
- まちづくり会社の設立にむけた検討の開始
- LINK カードと連携した事業

(3)2017 年度事業計画 (略)

<第 2 部>

基調講演 『『三方よし』を実現する仕組みを作る』

講師：島田昭彦氏 (地域活性化プロデューサー、京都観光おもてなし大使、
(株)クリップ代表取締役)

コーディネーター：杉岡秀紀氏 (福知山公立大学地域経営学部准教授)

(1)基調講演



▲島田昭彦氏

○島田氏から参加者への問いかけ

島田：島田氏の取材記事・京都新聞(2011年4月23日)「新発想伝統に注ぐ」(次頁参照)を読んで、気になった箇所は？

参加者 A：つくる力の1に対して、伝える力を5倍かけないとモノやサービスは広がりません。

参加者 B：企業とクリエイターを引き合わせる。

参加者 C：土産品も今後は「地産他消」の意識が必要です。

○島田氏企画プロデュースの京都市動物園リノベーションに関する VTR を視聴

島田：感想は？

参加者 D：これまでとは違った視点で作れた動物園だと思った。

島田：視点を変える、固定観念を振り払うことはとても重要。

参加者 E：動物園を訪れた人が驚いた顔をされていたのが印象的だった。

島田：誰のために何のためにしているのかを常に考えることは重要。これまでのきたないイメージだった食堂をおしゃれなレストランに変えた。

島田：新しい京都市動物園に行ったことがある人は？

参加者 F：京都にこんなところが出来たことに驚いた。

島田：サプライズ感を持ってもらえたことが大切。伝える力5倍は口コミやインターネットなどで広がることも含まれる。

京都新聞

〒600-8111 京都府京都市下京区東塩小路1-1-1
 電話 075-251-1111
 本社 075-251-1111
 編集 075-251-1112
 印刷 075-251-1113
 販売 075-251-1114
 075-251-1115
 075-251-1116
 075-251-1117
 075-251-1118
 075-251-1119
 075-251-1120

1060円
 1060円
 1060円

京都 好嫌

新発想 伝統に注ぐ

ビジネスプロデューサー
島田 昭彦さん

「京都の伝統をどうやって受け継いでいくのか」という問いに、島田昭彦さんは「伝統を守りながら、新しい発想で伝統をアップデートしていくことが大切だ」と答える。島田さんは、京都府の伝統産業を支援する「京都府伝統産業振興センター」の代表を務める。伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だと語る。また、伝統産業の魅力を国内外に発信し、観光資源として活用することも重要だと指摘する。島田さんは、伝統産業の振興には、政府だけでなく、民間企業や大学との連携が不可欠だと強調する。また、伝統産業の振興には、若い世代への人材育成が不可欠だと指摘する。島田さんは、伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だと語る。また、伝統産業の魅力を国内外に発信し、観光資源として活用することも重要だと指摘する。島田さんは、伝統産業の振興には、政府だけでなく、民間企業や大学との連携が不可欠だと強調する。また、伝統産業の振興には、若い世代への人材育成が不可欠だと指摘する。



「伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だ」と語る島田昭彦さん。

「伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だ」と語る島田昭彦さん。

「伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だ」と語る島田昭彦さん。

「伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だ」と語る島田昭彦さん。

「伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だ」と語る島田昭彦さん。

「伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だ」と語る島田昭彦さん。

「伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だ」と語る島田昭彦さん。

「伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だ」と語る島田昭彦さん。

「伝統産業の振興には、新しい発想と技術の導入が不可欠だ」と語る島田昭彦さん。



合わせれば面白い 外の世界伝える力を



「外の世界を伝える力」をテーマにしたイベントの様子。

▲京都新聞(2011年4月23日)「新発想伝統に注ぐ」

◆ビジネスを成功に導くためのコラボレーション・ヒットの方程式とは？

役に立つ × 楽しい ⇒ 三方よし

○三方よしの事例

伊右衛門サロンの場合。製造元はサントリー。お客様は健康にいいお茶を飲みながら楽しい時間を過ごすことができる。地元の人も喜んでくださっている。「作り手、買い手、世間よし」になっている。

◆ヒットのための3つのアクションプランとは？

- (1) 現場 100 回と人脈
- (2) アイデアの数はフットワークの良さに比例する
- (3) つくる力1に対して伝える力5倍

○その現場に行っただけで学ぶことがある事例

NASA に行っただけで気づいたこと。ジェット燃料が出てくる噴射口に燃料と硫黄の臭いが残っていた。

◆掛け合わせて新しい価値をつくる → 伝統 × モダン

○伝統×モダン／伝える力5倍の事例

- ・ 京友禅でつくったアロハシャツがヒットした。
- ・ 京友禅アロハの PR として、各種雑誌に掲載したり、ファッションショーを実施したりした。そうこうしているうちに、パリコレクションへの出展へ声がかかった。「伝える力5倍」をかけている中で、世界への道が広がった。

○伝統×モダン／失敗から学んだこと

- ・ 和傘を照明器具・ランプシェード（40センチぐらい）にリデザインしたときの経験。外国人の富裕層向けの展示会で出展したが不評だった。40センチのランプシェードでは広い部屋全体を照らすことができなかった。
- ・ ヒアリングに基づき、オーダーメイドで製作。海外の富裕層にとっては、他の人が持っていないものを持っている（他の人が体験したことがないことを体験した）ことに価値があることが分かった。

○インバウンドのために必要なこと

- ・ インドで京料理をふるまった事例。
- ・ 茶わん蒸しに手を付けてもらえなかった。スパイシーな味に慣れている人にとってデザートのような印象だった。出汁の説明をした後に食べてもらったら美味しく味わってもらえた。すると本物の味を食べたいから京都に行くと言ってもらえた。
- ・ インバウンドのためには、アウトバウンドして日本のことを伝える必要がある。シティプロモーションなどの場合にもあてはまる。

◆自治体×企業×海外／インバンド・アウトバンド／コ・クリエーションの仕掛け方

○市役所前でのイベント「京の伝統と食のイベント 2016 with ザ・プレミアム・モルツ・フェスティバル」の開催。「京都の伝統と食を PR する」ということを前面に出

す、京都の食材を使った食事がビールにあうという形をとることで実現した。

◆インバウンド／観光→体験→内省／学び、共感、共有

○また来たい、あの体験をしたいと感じる事例

- ・ 和菓子づくり体験
- ・ ガラスの茶室体験 等

◆掛け合わせてみる ヒト×コト

○誰が発信するのが重要

- ・ お金持ちが高級なものを求めている訳ではない。
- ・ ワイワイ楽しめるような空間でどのような経験をするのが大切。
- ・ 情報は行ったり来たりする。情報が動くと人が動く。

◆掛け合わせてみる／場所×食文化

○尾道市の事例

- ・ 空き店舗対策として、スペイン北部のバスク地方にあるサン・セバスチアンのような美食のまちをつくりたい。バル巡りをすることで回遊性を高める。
- ・ ひとつの店舗を朝・昼・夜のそれぞれを格安で提供し、スタートアップの人材を全国から募ったり、開業支援があったり開業のための応援もある。
- ・ 東西に広い尾道は舞鶴と似ている。点と点を線で結び、面に広げるために、例えば自転車などで結んでみてはどうか。その際、企業と行政がうまくコラボすると可能性が広がる。
- ・ 人脈とネットワークが重要。今日の出会いは大切にしたい。

◆視点をかえてみる／文化×自然

- ・ ブータンとの交流の例。いいところを伸ばす、競争ではなく個性を伸ばす教育を行っている。
- ・ 天草では人と動物が共生する取り組みを行っている。そこでアニマルセラピーを提案し、イルカと人間の交流を行っている。

◆文化→観光→経済

- ・ 文化がないとまた来たいと思わない。文化を学ぶことで知的好奇心が生まれ、観光につながり、経済活動に結びついていく。

◆ヒットの方程式／①役に立つ、②楽しい、③三方よし

- ・ 楽しいだけでは一過性のものになる。役に立つだけでは難しい。それらをバランスよく三方よしにつなげていく。

◆仕掛けを成功に導く 10 の法則

- 1.常に高くアンテナを張っていますか？

2. フットワークよく動いていますか？
3. 現場に行っていて感じていますか？ 現場 100 回。
4. 旅に出ていますか？
5. たくさんの経験をしていますか？
6. ニュースになることを意識していますか？
7. おもてなしを受けことがありますか？
8. 逆の立場になって考えていますか？
9. どうすれば、人に喜んでもらえるか考えていますか？
10. また会いたい、と思ってもらえる自分でしょうか？

(2) 質疑応答

質問 1 : クルーズ船などのお客さんを東エリアに誘導するために自転車利用について。

島田 : 普段は乗っていないかもしれないけれども、スポーツタイプの軽いタイプに乗ってみませんか…といった呼びかけをしてみてはどうか。ママチャリで 10 キロ乗るのは無理でもこれならばできるかもしれないといったニュアンスが重要。

質問 2 : 国道を走っても起伏があるが…。

島田 : そこが固定観念になっている。私は無理かもしれないけれども、他の人は違うかもしれない。そこにお金が発生する。そこに気づいて欲しい。誰もが早く移動したいとは限らないのではないか。

質問 3 : 多くの掛け算の話題が出たが、それ以外の計算式の例があれば教えて欲しい。

島田 : デザインやファッションは引き算で考える。あまり多くの色が入っているよりシンプルな方がいい。

質問 4 : 初めて訪問した土地でチェックするものは？

島田 : 欲望のスイッチをどう押すかがポイント。食はその中でも重要。その土地でしか食べられないものを食べてみたい。相手のことを考えると、半歩先のことを提案する。もしあたったら嬉しいという意識があればそこに料金が発生するかもしれない。

質問 5 : 自分の中にあるアイデアをどのように他者にアピールしたらいいか分からないときにどうすればいいのか。

島田 : まずは全く分からない人よりも少しでも分かる人に伝えてみる。それから何度も繰り返すこと。今日の事例の中でも失敗を重ねた中から生まれてきたものもある。

質問 6 : 人脈にメインはあるのか。

島田 : 著名人だから、まちの人だからということはない。その人が発する言葉ひとつひとつに耳を傾けるとヒントがあるはず。それを意識して声を聞くかということ。聞いて発信する、聞いて発信することの繰り返しのご縁だと思っている。それがコミュニケーションにつながる。私も自分ひとりの力だけでできてきたことはない。人とのつながりの中で面白い、楽しんでもらえるということをやってきた。

質問 7 : 自治会としてできることとして花でいっぱいにする活動をつづけてきた。商店街でも色んな活動をやってきた。これらをうまく結びつけるにはどうすればいいか。

- 島田 : やりたいことはたくさんあるが上手くいかないという場合、目標が不明確なことが多い。当事者の人たちのゴールの刷りあわせをしてみてもどうか。
- 杉岡 : 「もう一度会いたいと思ってもらえるかどうか」ということを地域のために言えるかどうか。それが地域の人間力につながってくると思う。最後に島田さんに「プロフェッショナルとは何か」について聞いてみたい。それぞれの立場でプロフェッショナルになることが地域をよりよくするためのキーワードになると思う。
- 島田 : 目の前にいる人にどう喜んでもらえるかを一番はじめに考える。目の前の人を喜ばせることができない人はおもてなしもできないし、サービスもできない。誰のためにやっているのか分からないままやっても上手くいかない。しかしこれが正解ではない。自分だったらどう思うか、相乗効果で考えると色んなことができていくだろう。今日の学びについて内省し、感じたことを発信して欲しい。

【地域創生×商店街×大学フォーラム】

舞鶴×商店街

このフォーラムは
参加無料です。
お気軽にご来場ください

地方創生の未来図をどうする!

日時 **6月5日(月)**
19:00~21:00 [開場 18:50]

場所 **舞鶴商工会議所
ホール(3F)**
〒825-0036 京都府舞鶴市字浜66
TEL: 0773-62-4600

◆ **第1部 (19:00~19:25)**
商店街創生プロジェクト事業報告
及び事業計画

◆ **第2部 (19:30~21:00)**
基調講演
「三方よし」を実現する仕組みを作る
島田 昭彦 氏

地域活性プロデューサー
京都観光おもてなし大使
(株)クリップ代表取締役

常に目指すのは「三方よし」。
作り手、買い手、そして自分自身。
関わるすべての立場の人達に、
ハッピーをもたらすこと。

プロフィール
2005年、『京都、日本のモノ・コト、文化を世界に、世界の人を日本、京都に』をキーワードに、ヒト、モノ・コト、文化をコラボレーションし、ブランディング・マッチングを行い、創業集、創業開発を行う企業会社 (株)クリップ設立。
地域活性の仕掛け人、プロデューサーとして、伝統とモダンをキーワードに、親友庵×アロハシャツpagong、京友庵×歌舞×マントリー線茶伊右衛門のリアルカフェ「伊右衛門サロン」、京都×世界VIP×デザインホテル「The Screen」、京都西×東京ガールズコレクション、京都リ×V/Rコレクション、京都西陣(表町)×コペンハーゲン(本数デザイン)×上海(製造拠点) = 国際分業インテリアビジネス、パリでは京都伝統産業×アランデュカス、京都府警庁、吉岡徳仁ガラスの茶室、ミラノ万博 KYOTOWEEK、HYOGO WEEKなどをプロデュース。

コーディネーター
杉岡 秀紀
福知山国立大学准教授
京都府立総合政策研究所長
京都府立総合政策研究所長
京都府立総合政策研究所長
京都府立総合政策研究所長
京都府立総合政策研究所長

「日経トレンディ」やスポーツ総合誌「Number」の編集者としてイチローや伊達公子、中田英寿選手ら表紙に登場するほぼすべてのアスリートと交流を深められました!!

主催: 舞鶴商工会議所・協同組合東舞鶴商店街連盟・特定非営利活動法人MCA

お問い合わせ先: 地方創生プラン策定委員会 事務局 ☎0773-62-0708 (土曜)

(3) 第3回委員会

日 時：2017年8月24日（木）19:30～21:00

場 所：八島商店街2階（海軍御用達お土産館）

出席者（敬称略）：

（商店街）商店街連盟：伊庭（東商連）、清野（七条）

MCA：塩見、田口、松井、土田

（行 政）舞鶴市：竹山（観光商業課）

京都府：小西（商業・経営支援課）、

鶴飼（中丹広域振興局）

（その他）舞鶴高専：尾上／斎藤、谷口、長瀬、高橋、足立

福知山公立大：杉岡

商工会議所：桐村

協働研：片岡（計18人）

配布資料： 資料① 第1回委員会議事録

資料② フォーラムアンケート

資料③ 新聞記事（ホラーハウス、艦これ）

資料④ しあわせまちづくりワークショップ（案）

誘導施策の展開イメージ【東舞鶴地区】

アートアクアリウム舞鶴2017事業計画書

平成29年度京都府商店街発 CMO 創設支援事業費補助金＜募集要項＞

<議事内容>

1、前回議事、前回フォーラムアンケートについて <略>（資料①②）

2、事業実施及び進捗状況報告について

○軍艦通り33箇所巡りご朱印帳内容について

御朱印帳は100～150部ぐらい販売済み。

○海軍御用達お土産館WEB販売について

体制づくりを進めた上で、販売実績につなげていきたい。

○お土産開発

アニメ「刀剣乱舞」のグッズも販売している京都一夢庵にお土産開発を依頼中。

○東舞鶴エリアにおける宅配貨物の共配について

若者を中心に事業を開始。今後は主婦に対象を広げていきたい。

○旧マイコム食品スーパー

中小企業庁補助金（2次募集）を申請する予定。

○ビジネスホテル誘致&伊右衛門カフェ

- モナコ会館跡にスーパーホテルができる予定。
- 観光宿泊施設の府補助金が新しくできる予定（要項は近日中に発表予定）。市町村の支援が必要だが、市としては宿泊施設が足りている状況で一社に対して補助するのは難しい状況。
- 民間が建設した建物の中に公的なサービスを提供するフロアをつくるという事例もある。行政だけでなく、まちづくり会社、商工会議所など多様な担い手が想定できる。

○クルーズ船オプショナルツアー

京都府のPR効果もあって多くの参加者があった。

○海軍ホラーハウス

夜の市に来られた方を中心に多くの参加者があった。入場者数 2300 人。（資料③）
会場になった場所で新規出店もあり。

3、都市基盤整備ワークショップ

- 尾上氏から「しあわせまちづくりワークショップ」について説明があった。
 - ・ 来年度にワークショップを実施するにあたって、今年度は住民代表に集まってもらったそのたたき台をつくることを中心に主眼においている。その上でより幅広い意見を聞いていきたい。
 - ・ 舞鶴高専が行う研究の一貫という位置づけで進めたい。
 - ・ 中心市街地の住民の一部として商店街をとらえる。
 - ・ 案だし座談会や住民アンケートを通して「しあわせ度」をはかるための項目を整理し、未来を考えるために必要なこと、施設整備を考えていく。
 - ・ 対象とするエリアは要検討。
- 松井氏から以前に赤れんがパークのあり方を検討するにあたってジオラマを作成したことについて説明があった。
- 対象とするエリアについては、舞鶴市が作成した都市計画における誘導施策の展開イメージ【東舞鶴地区】の範囲とすることになった。

（意見交換）

竹山／いままでのワークショップのやり方でいいのかとの問題提起だったと思う。赤れんがパーク周辺はこれまでの蓄積もあって賑わいの場となったが、いま市で検討しているのは、市外からやってきた人をまちなかに誘導する仕組みについて。これまでは外から来てもらうという第1ステージだったが、これからまちの皆さんがどれだけまちなかに誘導するかという第2ステージに入ってきている。そのための施策を打つ一方、住んでいる人にとってはどうなのかの議論は必要。案だし座談会などの場でぜひ検討したい。自治会長に話を聞けばいいということではないだろう。

塩見／人選はした方がいいだろう。

杉岡／2025年問題と一般的にいわれるが、2042年問題の方が深刻になる。団塊ジュニアが高齢化をむかえ3分の2が高齢者になる。そこで何ができるか。自治会が受け皿になれない。新しい仕組みが必要。「縮小ニッポンの衝撃」(講談社現代新書)に、豊島区では単身高齢化が進むことから「消滅可能性都市」リストに入っていることが記述されている。

これからは、民による公共にこだわるべきだろう。民によるもうひとつの市役所のような存在が求められている。「シェア金沢」という施設が子どもから高齢者までが集う「ごちゃまぜの街」をつくり注目を集めている。未来を2040～50年ぐらいに定めて、将来像を描いていく。独居老人がどんどん増えていく中で、いかにつながりをつくっていきけるか、未来の幸せの家のようなもの新しい形をつくっていく。

働く場としては、兼業ができるまちを目ざしていくのがいいだろう。

竹山／公で担うこととは何かの議論は必要。

杉岡／「艦これ」イベントに8000人が集まるが、そのうち1%でも移住しようとする人がいれば80人になる。

松井／「艦これ」イベントにくる人は特殊技能をもっている人が多い。センスがある。

「艦これ」前夜祭に参加する人が年々増えている。これまでは同人誌の即売会だったが、今年は祭り化してきた。ファンの人たちがつくっている。

土田／地元でもアニメツーリズムに対する理解度が高まってきた。

松井／行政としては西舞鶴とのバランスが問題になるだろう。お土産開発を依頼している一夢庵は「刀剣乱舞」というアニメグッズを開発している。そこに協力を求めると田辺城の中で「刀剣乱舞」のイベントを実施してもらえる。「刀剣乱舞」は女性をターゲットにしたアニメ。「艦これ」のターゲットは男性なので、東西で同時にイベントを開催するといい。それぞれにファンをつくっていく。

土田／一夢庵には33ヶ所のキャラクター開発も依頼している。それもまちづくりに活かしていきたい。

松井／結果としてお金が流通すれば人は集まってくる。「艦これ」は3年前の作品なのでブームは過ぎている。しかし固定客がいる。そこをターゲットにしていく。

杉岡／三条通りに動きが出てきたことに注目している。そこに人が流れ始めると面白いことが起きてくる。そこから赤れんがパークにつながっていく。

松井／パチンコ屋(キコーナ)が建て直しをする予定。すると風景がかわってくるだろう。ちょっとした建設ラッシュのような形になる。

杉岡／まちのキーワードが必要。自転車は先行事例がたくさんあるので、プラスαを検討していく。

土田／近畿財務局から土地の有効利用を含めて話をしたいとの希望をきいている。「まちの駅」構想も検討したい。

尾上／キーワードが欲しい。

杉岡／インタビューの中から出てくるのでは？

松井／歴史、過去の出来事、経緯などにヒントがあるのではないかと。赤れんがもそうだった。

土田／基盤整備と同時に、まちづくりを持続的に仕掛ける組織としてまちづくり会社の設立を検討していきたい。

小西／古川町、福知山市など他都市のまちづくり会社の事例を紹介したい。

竹山／他都市がなぜ成功しているのか、舞鶴にどのように活かせるのか模索していく作業が必要だろう。

杉岡／与謝野町に「京都 X キャンプ」という学生団体がある。全国から学生がキャンプのためにやってくる。卒業した後も関わりたい人がおり、移住者もいる。「艦これ」など舞鶴にかかわったことのある人が戻ってくる。外からくる人が中に人と語れる、外からきた人たちを排除しないまちということにヒントがあるのではないか。

土田／塩尻市の山田さんが「〇〇なのだ」という言葉を使っているが、舞鶴らしい表現が欲しい。

竹山／PR するためには、ちょっと突飛と思うぐらいの言葉が必要なかもしれない。それ自体が戦略になるだろう。

今日の議論の中で、学生さんたちの未来を大人が真剣に考えるところがいいと思う。

これまで同様のアプローチはあったが、それが学生側から出てくることが重要。

松井／ステージは大人がつくるが、その中で遊んでもらう。

尾上／私の立場はアイデアを考える側ではない。しかし、建築が専門の人もまちづくりに関わりながら仕事をしていく時代になっている。本来は発注されたものをつくるが、発注がない中で発注者の発想も分かった上でそこから生み出していく必要がある。余白・ゆとりを大人がつくれるまちになったらいいと思うが、残念ながら余白がたくさんあるのに提供してもらえない現状にある。空間として発案できないことが問題だと思っている。

土田／誰かがリスクをおう必要がある。

小西／福知山の場合、まちづくり会社の社員さんが自分で空き家を買ったり、交渉したりしている。

尾上／先行事例では、家賃ゼロまたは安い値段で借りられている。

小西／福知山では、まちづくり会社の活動に共感して安い家賃で貸してもらえようになつたりもしている。何か具体的に見えるものがないと難しいのではないか。

竹山／学生たちのアイデアにプラスして、どのように運営していくかという両者を考えていく必要があるのだろう。

土田／器をつくってオーナーを募るという事例もある。

竹山／古川町の人の話では、投資したい人は多いが、いかに貸してもらえる人を探すか、探した後どのようにビジネスにもっていくかが問題とのことだった。

尾上／多数のオーナーが借りられる住宅のようなものが実現できないか。

杉岡／道後温泉ができたとき、松山市の半分ぐらいの予算をかけたらしい。その代わりに、商店街の人には永代利用券が配布されて今でも使っている。徳島県神山町が行っている「アーティスト・イン・レジデンス」では「隠された図書館」という建物がある。本を寄贈した町民だけがその鍵を持っていて、基本的にはそれ以外の人がなかをのぞくことはできない。「私だけ」「私以外の皆」をコラボすると面白いものができるのではないか。

尾上／人口にはカウントされないが、観光ではなく別荘のような形で舞鶴を訪れる、ふわっとした住民のような存在が滞在できる場があってもいいのではないか。

杉岡／飯田市には「公民館する」という言葉がある。公民館活動に参加をするという意味。

舞鶴は MCA なので「MCA する」というのはどうか。「まかる」には「出むく」「参上する」「行く」などの意味がある。「M」は学び、マネー、「C」はチャレンジ、コラボレーション、コーペレーション、クリエイティブ、「A」は遊び、アクションなど、色々な意味を持たせることができる。

4、その他

○京都府商店街発 CMO 創設支援事業費補助金について

小西氏から標記補助金について説明があった。

- ・ 今年度の新規案件で対象地域は古川町になる予定。これまで色々な形で活動してきた人にまちづくり会社の設立にかかわってもらい、地域課題解決のための事業を行ってもらおう。認定の日から3年間。
- ・ まちづくり会社を設立する必要があるが、舞鶴でもできそうであれば予算要求は可能。

○旧海軍配水施設の活用について

「アートアクアリウム舞鶴 2017 事業計画書」に基づき松井氏から説明があった。

実施日 : 10月20日(金)～22日(日)

会場 : 舞鶴市北吸浄水場第1配水場

タイトル: 赤れんが水の魔法陣

(4) 第4回委員会

@マイコム 20171108 19:30~

●アンケートについて

- ・市民に意図が伝わるのか
- ・アンケートを回覧板で回して手に取ってもらえるのか
- ・町内の中に“組”がある（回覧板を回す最小単位）一回しても手に取ってもらえない
- ・舞鶴市の位置づけ—主催ではなく協力
（主催：尾上研、商店街創生…、自治連合会 協力：京都府、舞鶴市）
- ・ビジュアル的にまちづくりを説明できるものを付け足す
（地図、パースなど）
- ・問 13→あなたはまちづくりに対してどのような協力（参加）ができますか
- ・谷川さんと各組長に挨拶に行く（11/20~24の週）
→各組長にアンケートを取ってもらう（必要な協力する）
- ・一世帯一つ以上のアンケートをとれるように多めに用意する
- ・アンケート公表日を掲示する（2~3月）
- ・住民アンケートと街での聞き込みアンケートを比較（来年度以降）
- ・次回の会議は一月半ば~一月末

●事業の報告

- ・旧マイコム食品スーパーは2~3年後の完成予定
- ・①舞鶴の歴史を資源として②商店街を資源として③多方面と手を組んで④勉強会もやりながら⑤まずやってみることから（松井さんを例に） →商売につなげることが大切

●まちづくり会社について

- ・収入源がないと会社が回らなくなる。→何を収入源にするのか
- ・舞鶴にしかないものをどう発信するか
- ・市民が活躍できる“居場所”と“出番”を作ることが大事

●その他

- ・まちづくりの住民認知を上げる、
- ・プレーヤーを増やす（当事者意識を持ってもらう）

(5) 第5回委員会

○日 時：平成 29 年 12 月 21 日（木）19 時 30 分～

○場 所：旧マイコム（5 条立体駐車場 1F スペースⅡ）

○主な議題

- (1) 前回議事について
- (2) 軍艦通り 33 キャラ作成について
- (3) 市民が考える東舞鶴中心市街地エリアのミライについて
 - ・アンケート途中経過と今後
- (4) 都市整備等未来と連動したまちづくり会社の在り方について
- (5) 事業実施及び進捗状況報告について
 - (1) 軍艦通り 33 箇所巡りご朱印帳内容について
 - (2) 海軍御用達お土産館 WEB 販売について
 - (3) お土産開発
 - (4) 旧マイコム食品スーパー
 - (5) ビジネスホテル誘致
 - (6) 「海の京都」無人島サバゲー企画
 - (7) 第 6 回舞鎮「艦これ」企画案
- (6) 次回開催について
- (7) その他（ディスカッション、連絡事項等）

(1) 前回議事について

○時間の関係で前回議事については、割愛させていただく。

(2) 軍艦通り 33 キャラ作成について

(森田)

渡辺さんから全艦のコンセプトをまとめることになったが、まだ完成していない。現在公募のためのホームページをつくっているところ。

あと渡辺さんからデータをもらってコンセプトを埋めていく。公募方法については、改めて相談させてほしい。今は、トップページしかみられない状況。年内にほぼ完成の予定。2 月に間に合わせたい。閲覧数をどう増やすかなどについて協力を皆さんにお願いしたい。

(土田)

ユネスコ関連団体から舞鶴の都市計画を推薦したいという話がきている。（「舞鶴の海軍施設と都市計画」）。広島、南禅寺など日本国内 20 ほどのひとつ。

(3) 市民が考える東舞鶴中心市街地エリアのミライについて

(足立)

- ・アンケートは、自治会長を通じて配布を終えたところ。一世帯に複数の調査票を配布し、回答しやすいように工夫した。(世帯数×1.5倍の配布数)
次回に調査結果の発表ができるのではないかと考えている。

(土田)

2月に大きな会議を計画している。その際には、自治会長にも来てもらいたいと考えている。

(4) 都市整備等未来と連動したまちづくり会社の在り方について

○杉岡先生(福知山公立大学)、小西さん(京都府)から、まち会社の事例などの報告があった。

(土田)

森田さん、今の報告を受けての感想などは？

(森田)

福知山には、まち会社と、今お話にあったフロンティアの2つがある。まち会社には、駐車場がある限りまちの活性化はむつかしいと、多くの人を感じている。駐車場があるために、やりたい事業が出来ない。また関係者の熱量をみられない。フロンティアは現在のところ、よくわからないが活性化は一部にとどまっている印象。新規出店(長浜ラーメン、肉山田肉男)は、上手くいっている。福知山は、ベクトル(押す方向)を一方向にしなければ、分散してしまう。それが心配。地元のおばあちゃんに来て、活性化といえるのではないか。

(杉岡)

まち会社では、組織や会社ありきの議論はさげたい。同様に補助金頼りをさげたい。誰が担うのか？そこが重要。

(松井)

MCAは、ごじゃまぜの組織。ソフト面の事業を主にやっている(ハードではない)。行政からの委託は必要と考えているが、補助金は好んでいない。

(杉岡)

東近江の「ソーシャル・インパクト・ボンド」は参考になるだろう。やりたい人が共感者とお金を集める。支払い後に行政が返す仕組み。お金を出した人は口も出す。その結果、まちへの関心が高まる。

舞鶴にも市民ファンドがつくれるだろうか？

(塩見)

若い世代では、名取さんが「浜風の会」(40~50代)をつくって活動している。毎月の

定例会なので杉岡先生も安心してほしい。彼らは皆将来の商店街を背負う人たち。

(田口)

女性はごちゃごちゃしたところは好まないのでは？

(杉岡)

福知山は男性社会。笠置のまち会社は女性 2 名が入っている。地元企業のトップを入れると男性色が強くなりがち。

(田口)

女性が入らないとしんどい気がする。

(土田)

舞鶴はシャッターが閉まる場所も多く、関係人口を増やすしかない。

(杉岡)

土地の価値を上げることが重要。

(竹山)

行政のもっている土地・建物は、不便なところや不整形なものが多い。

(土田)

五条公園のビルを早く撤去してほしい。

(財務局)

売るものがない舞鶴は大きな土地のニーズが低いかもしれない。前島埠頭には、広い土地がある。その関係人口の発想はすばらしい。

(杉岡)

公の不動産もいいが、民の不動産も重要。

(土田)

いま「海の京都」で無人島サバイバルゲーム（サバゲー）企画がある。昔キャンプ場だったところ。

(松井)

海上保安学校など、プロ級の人も多い。お金ある若い人も多い。全国でもまだ事例がなく、やれば全国から人が集まるかも。

(杉岡)

ケータイ通じない環境でどうサバイブするか。これは、教育のテーマにもなる。大学の合宿や結婚式など、いろいろなことが考えられる。

(5) 事業実施及び進捗状況報告について

(田口)

JR にポスターを貼る予定 (33 箇所めぐり)

2/18 は寒いと思うが、人は集まると思う。

商店街にも人を呼びたい

(土田)

この件は、「にぎわい回復事業」(京都府)とも関連する。

艦これに合わせて、アンテナショップを開設するなど、土産のスペースを検討したい。

(6) 感想など

(工藤)

今日の会議は、おもしろい発想が多い印象。

(梅田)

着々と進んでいる印象。赤れんが以外にも拡大を期待したい。

(鵜飼)

京都府との関わりがやっとなつかめてきた感じ。

(足立)

サバゲーの話がおもしろかった。

(桐村)

福知山のフロントの話がおもしろかった。

(吉森)

ホテルは順調に進んでいる。いま地盤調査中。土産売場の設置を検討中。

(谷)

初めて参加。おもしろかった。市民は案外地元を知らないのでは。

(6) 第6回委員会

○2018年3月1日 19:30~21:30

○マイコムスペースⅢ

1. 市民アンケート結果等について

○資料、模型にもとづき安達さん説明

(杉岡)

○今回の報告は、エビデンスがあつてとてもいい。世代別ニーズをつかんだことは大きな意味がある。「呼吸する空間」が必要。それは用がなくても立ち寄れる場所。文化的資源へのニーズをどうみるのかもポイント。

(あだち)

○だるま堂は、まちのシンボルとして検討してみた。

(塩見)

○実業会は難しい組織。人も多く、今後どうするか議論が必要。いずれはなくなる組織。

(小西)

○先日、会の代表に会った。事業としては、駐車場管理と貸館程度しかやっていない。

(杉岡)

○実業会館は、建物壊すイニシャルを誰が負担するかなど、これから各論に入る段階になる。

○今日のところはまだ夢を語るレベル。

(松井 妻)

○おみやげ館などは、「かんこれ」に負うところが大きい。「かんこれ」は、ものすごく偏りがある世界。でも多くの人やってくる。自衛隊オタクやキャラクターオタクなど。古地図の1000円セットは地図だけ求めるマニアもけっこういる。この建物は地域住民というよりも、旅行者や自衛隊員がやってくる施設。

(松井)

○旧海軍のもたらした文化が凝縮されたまち。条割り(碁盤の目)のまちも全国的にはめずらしい。これに自分たちが誇りをもつことが大切。

○かんこれは、固定ファンが一定ついた印象。たぶん5000人くらい。この層が第2のふるさとと思える地域にしたい。そうすることで人口が5000人増えたようになる。

○経済効果は、売店で200万くらい。全体で約2億円くらいだと思う。

(伊庭(節))

○来る人は常連客(北海道や東京)が多い。市民から見ると別世界のおどろいている。かんこれを知っている人は、半分くらいではないか。

○市の勉強会では、講師が赤れんがに批判的。がっかりした記憶があるが、濱地区を案内したとき、喜ばれ、海軍のまちとして認識していただけた。住民が伝える努力をすることは重要。

○だるま堂を批判的にいわれショックだった。これは軍のまちから平和のまちへかじ切るシンボルだった。異なる視点で資源をみることが重要。

(あだち)

○設計者冥利につきる。

(尾上)

○社会運動的価値の発想が必要。重要な建物を残し、過去と現在を結びつけることが重要。

(杉岡)

○さびれた状況をなんとかするか、ほっとくかの、現在は過渡期にある。

○自治会の人コメントを求めたい。

(高橋)

○アンケートでは、たくさんの協力が得られてよかったと思う。

○エリア別集計で「福祉施設」があったが、どんなものか。

(足立)

○病院や介護施設を想定。ただし、記入者の考え方はわからない。

(高橋)

○医療的には舞鶴はたいへん恵まれた地域である。

(土田)

○3月末にフォーラムの実施を検討している。

○八島の「よろず」のあと、2日間アンテナショップをやる予定。のちには、府の「どこでもギャラリー事業」でショップにする予定。

○産直マートから、おみやげを向かいに移動。

○これにともない、日常で買い物に不便を感じる人が増えることが想定されるため、スーパーマーケットが必要と考えている。

(飯田)

○どのくらいの面積が必要でどの程度の品ぞろえが必要か検討しているところ。

(村田)

○地域には高齢者が圧倒的に多い。産直マートにはしょうゆやソースを買い求める人が多かった。

(松井)

○昼食難民も多いと聞いている。

(吉森)

○しょうゆはじめ、いろんなものが足りないと感じている。

(谷川(妻))

○スーパーが近くにあれば助かる。

(松井)

○移動販売車が、ときどき商店街の中に入って来るが、違和感がある。

(土田)

○最近、中舞鶴に介護マンションが出来たが、中心市街地はそうなるかもしれない。

○食品は半径500m圏内しか買わないだろう。

(高橋)

○大門の市民病院跡地に、にぎわい施設をつくるニーズが住民側にある。市はそこを理解してほしい。

(土田)

○行政はタテ割りで、となりの課のことがわからないことが多い。

2. 杉岡先生からの情報提供

○白川のまちづくりは、参加型出資がキーワードになっている。サードプレイスとしての「古川趣蔵」。

○あるいは、インバウンド+コト消費。例えば、ワークショップ型店舗（まちゼミ型店舗で学べる店）などを地域に展開し、利益を地域に再投資するスタイル。

○商店街の関係人口を増やすことが重要。

3. 事業及び進捗状況について

○土田さんの報告（7/21 かんこれ実施など）

(吉森)

○ホテルは誘致ではなく、建つことが決定。商店街も明るくなる。4月1日着工予定。作業員向けの弁当販売も予定。活性化につなげていきたい。

○温泉も探しているが、どこも湯量が少ない。

(伊庭)

○チャンスを生かしたい。

(谷川)

○福祉施設は、80床のものが出来る予定。

白鳥の道路拡幅は市内拡大のものとなる。330mのトンネルも掘る予定。

(鵜飼)

○だるま堂のことは知らなかった。実業会の建物は古いけど、いい部分は残したい。

(会議所)

○まちの協力がどのくらい得られるのか関心がある。

(梅田)

○夢がある話だが、たいへんかもしれない。

(竹山)

○多くの人が議論に参加していただけるのは、ありがたい。

(7) 第7回委員会

「地域創生×商店街×大学フォーラム 舞鶴×商店街 地域創生の未来図をどうする！」

主催：協同組合東舞鶴商店街連盟、特定非営利活動法人 MCA、舞鶴高専

協力：京都府、舞鶴東自治連合会

1、概要

日 時：2017年3月30日（金）19:00～21:00

場 所：五条立体駐車場1Fホール（旧マイコム）

プログラム：

<第1部>

市民が考える東舞鶴中心市街地の未来

舞鶴高専によるアンケート発表：舞鶴高専尾上ゼミ

<第2部>

基調講演「地域の発展と商店街の繁栄を目指して～白川まちづくり会社～」

講師：鈴木淳之氏（株式会社白川まちづくり会社、白川まちづくり協議会、
白川町商店街振興組合）

<第3部>

パネルディスカッション

テーマ「民主導で考える地域（商店街）の未来」

パネリスト：鈴木淳之氏

尾上亮介氏（舞鶴高専）

竹山 真氏（舞鶴市）

藤原隆一氏（舞鶴東自治会連合会会長、中浜区区长）

吉森則行氏（マルケイ三条店営業部長）

コーディネーター：杉岡秀紀氏（福知山公立大学地域経営学部准教授）

2、フォーラムの内容

<第1部>

東舞鶴中心市街地エリアにおけるまちづくり調査及び拠点の提案

報告：足立輝人氏（舞鶴高専 尾上・今村研究室 5年）

(1) アンケート調査の概要

名称：「市民が考える東舞鶴中心市街地エリアのミライ」市民アンケート

対象世帯数：1,223戸 うち回答数 483件

調査範囲：「舞鶴市立地適正化計画」（平成29年12月）における東舞鶴地区の「居住誘導区域」および「都市機能誘導区域」

(2) 主な集計結果

○東舞鶴でよく利用するエリア

- ・ 全体の約半数が「東舞鶴駅周辺」、2割が「市役所周辺」「商店街周辺」。
- ・ 年齢別では50代以下は約6割が「東舞鶴駅周辺」と回答。60代以上は「市役所周辺」「商店街周辺」に分散。
- ・ 在住期間別では、10年以下は「東舞鶴駅周辺」の割合が多い。

○20年後の中心市街地エリアのテーマ

- ・ 全体では1位「安心安全・災害対策」、2位「買い物などの利便性」、3位「健康・寿命」。
- ・ エリア別では、三条西、三条東で「買い物などの利便性」が最多。
- ・ 年齢別では10代「娯楽施設」「公共交通機関の充実」が最多。20代「豊かに暮らすための食」が最多、「娯楽施設」も多い。30代・40代「子育て・教育」が多い。
- ・ 在住期間別では、1～5年「買い物などの利便性」「子育て・教育」、6年以上「安心安全・災害対策」、10年以上「健康・寿命」「買い物などの利便性」が多い。

○舞鶴以外で住んでみたい街とその街の魅力

- ・ 京都市：歴史・文化がある。自然と観光・商業とのバランスが良い。
- ・ 神戸市：コンパクトな都市。イメージが良い。温暖の気候。
- ・ 福知山市：活気がある。地方都市としての機能が充実している。公共交通機関が充実している。

○20年後の東舞鶴に必要なだと感じる場所・施設

- ・ 全体では、1位「福祉施設」、2位「食料品店」、3位「コミュニティスペース」、4位「観光地」
- ・ エリア別では、大門北は「観光地」より「飲食店」が多い。三条西は「福祉施設」が最多。三条東は「食料品店」が最多。駅南では「観光地」が多い。
- ・ 年齢別では、10代「映画館」、20代「映画館」「食料品店」、30代「観光地」「衣料品店」、40代以上「福祉施設」が多い。40代50代は「コミュニティスペース」も多い。60代70代は「食料品店」が多い。
- ・ 在住期間別では、1～5年は「食料品店」、6年以上は「福祉施設」が最多。6～10年は「カフェ」「衣料品店」、10年以上は「食料品店」も多い。

○現在の東舞鶴に必要なだと感じる場所・施設

- ・ 全体的には「20年後の東舞鶴に必要なだと感じる場所・施設」と同じような傾向。「イ飲食店」「カフェ」も増えている。
- ・ エリア別では大門北で「福祉施設」「カフェ」「飲食店」、三条西・三条東では「食料品店」、三条東では「カフェ」「日用品店」、駅前では「観光地」が多い。
- ・ 年齢別では、10代「観光地」、20代「映画館」、30代「カフェ」「観光地」「飲食店」、40代は「福祉施設」「読書・勉強ができるスペース」が多い。
- ・ 在住期間別では、1～5年は「食料品店」「衣料品店」、6～10年は「飲食店」「カフェ」、10年以上は「食料品店」、生まれた時から「福祉施設」が多い。

○あれば参加したいイベント

- ・ 全体では1位「舞鶴の歴史・文化系」、2位「スポーツ系」、3位「ものづくり系」

- ・年齢別では、10代「スポーツ系」、20代「子育て系」「スポーツ系」、30代40代「スポーツ系」「子育て系」「ものづくり系」、50代以上「舞鶴の歴史・文化系」が多い。
- まちづくりに対してどのような協力ができるか（自由記述）
 - 参加：イベント参加、あいさつ、高齢者とのコミュニケーション
 - 実行：イベント立案、イベント主催、まちの語り部
 - 支援：イベント出資、投資、情報発信・共有、イベント告知
 - 奉仕作業：草刈り、清掃活動、休日のボランティア
 - その他：乳幼児の見守り

(3)まちづくり拠点の提案

対象敷地：舞鶴実業会館

選定理由：①立地、②だるま堂の存在、③有効活用されていない

設計のコンセプト：

- ① 住民発信の様々な活動を許容する空間を設計する
- ② 誰もが入りやすい空間を設計する
- ③ 現在行われている多目的利用の継続
- ④ 住民による活動の継続するだるま堂を設計する

使用方法：①まちづくり会社の事務所

②内広場と外広場（住民が自由に使える場）

③移動式のだるま堂



▲まちづくりの拠点の提案

<第2部>

基調講演「地域の発展と商店街の繁栄を目指して～白川まちづくり会社～」

講師：鈴木淳之氏（株式会社白川まちづくり会社、白川まちづくり協議会、
白川町商店街振興組合）

(1) 古川町商店街の取り組み（2014年10月～）

- 自己紹介、古川町商店街や白川エリア等についての位置の説明、商店街の概要等の説明等
- 古川町商店街の問題点としては、①後継者不足による閉店、②店主の高齢化、③店舗の住宅・マンション化、④地域社会との連携不足などがあった。それに対する商店街の施策として、①イベントの開催（広域型と地域密着型）、②商店街が地域の核を目指す、③新店舗の誘致、④各商店の逸品づくりなどに取り組んできた。
- 広域イベントを2年6ヶ月に9回開催し、58,500人を集客した。目的は、①古川町商店街をより多くの人に知っていただく、②商店主さんの販売に対する意欲の向上、③商店街店舗だけでなく周辺エリアの店舗出店、④商店街の一体化、⑤新規出店希望者への訴求など。
- 地域密着型イベントを開催するにあたり拠点を設置。食事会などを開催している。また、京都大学をはじめ、各学校と連携した事業を実施。インバンド向けワークショップ、英文のPOPづくり、昔遊び、グリーンドリンクス、職人の技リスペクト体験などを行ってきた。
- 2年間の変化としては、商店街内に9店舗、商店街外に2店舗の新規出店があった。またワークショップができる店ができたり、インバンドにより売上がアップした。また商店街の通行量が160%増加している。
- この間の取り組みの中で感じたことは、まずそれぞれの個店が強いことが必要。イベントを通して周辺の店舗とも連携をとり全体として盛り上げていく必要がある。また、全員賛成はありえないので出来るところからやっていく。それから、外部のパワーを借りることが重要。断らずに受け入れてやっていくことが大切である。



▲鈴木淳之氏

(2) 白川まちづくり協議会の発足・活動

- 白川エリアの価値向上と地域住民の価値向上を目指して発足した協議会。2016年3月12日発足。栗田自治会内（2300世帯、4000人）の白川エリア（900世帯、1600人）が対象になっている。
- 地域住民と商店街が一体となってエリアの価値向上を目指している。目的は、①白川エリアの価値向上、②空家・空き店舗の調査と流通促進、③地域コミュニティの再生と路地の活性化。
- 商店街以外のエリアの活動として、空き家・空き店舗調査、交通規制への対策、白川の清掃などを行っている。地域の一大イベントとして、栗田白川夏祭りも協議会の行

事として実施している。また、「白川まちづくり協議会だより」を発行したり、「白川しゃべりば」を実施して地域外の人に地域の魅力を語ってもらったりしている。「ワーキンググループ」では、役員以外で若い人に活動してもらっている。白川沿川の舗装にも取り組んできた。

- 協議会設立当初に考えていたこととしては、まずは組織をつくること、定期的な会議をつづけることが必要だということがある。当初は会議もなかなか上手くいかなかったが、回を重ねるごとに若い人も参加してその力を取り込むこともできた。また地域の魅力は外部の人が探すということが基本だと感じている。

(3) 株式会社白川まちづくり会社の設立

- 商店街と地域、住民が一体となって地域の社会問題を解決するソーシャルカンパニー。英語を中心に2ヶ国語が話せるダブルキャリアの職員がスタッフとして活動していることが特徴。
- 目的は地域の課題解決を目指すこと。具体的には、①高齢化問題、単身世帯問題、商店街の活性化など地域が抱える社会的課題の解決を目指す、②地域住民、教育機関、金融機関、企業等と一体となり住民が“豊かさ”を感じられる地域の実現を目指す、③クラウド製ポイントシステム導入、地域通貨、地域商品券など地域循環型社会を目指す、などがある。
- 経営方針として、「住民による地域のためのソーシャル・カンパニー」を掲げており、次のような特徴がある。
 - ① 地元の会社です。すべての企業活動は地元のために行っていくことを主とします。
 - ② 企業活動によって、地域の社会的資産価値の向上を図ります。
 - ③ 企業活動によって得た収益は地元へ再投資します。
 - ・収益配分は、地域、株主、経営主体がそれぞれ3分の1ずつとします。
 - ・株主への配当は、たとえば地域通貨での支払など地元が潤う手段で行います。
- 地域の抱える社会課題としては、高齢化問題、空家問題、空店舗問題、ゲストハウス問題などがある。これらに対して、次のような事業を行っている。
 - ① 「21世紀型幸せコミュニティ創生事業」として、地域の高齢者が集まり、皆でお昼のひとときを過ごす「ともいき食堂（シニア食堂）」およびワークショップの実施。
 - ② 「古川町商店街活性化事業」としては、事業継承塾、起業塾、店舗誘致などを行うと同時に、店舗が空き次第チャレンジショップを実施したり、白川エリアブランドづくりを行ったりしている。
 - ③ 「体験型コンテンツ開発事業」としては、京都市観光協会とタイアップした「インバンド向け早朝まち歩きツアー」「日本語学校向け料理体験」などを実施している。
 - ④ 「町家ゲストハウス事業」では自社物件でゲストハウスを運営。「地域文化の継承」「地域社会への貢献」「地域社会とゲストをつなぐ」ことを目標に、「白川くらし」をブランド化。地域内のゲストハウスネットワーク化し、「白川 コ・クリエイション(共創)」として展開していくことを目指している。

- 白川まちづくり協議会、白川まちづくり会社、古川町商店街等が一体となってエリアの活性化を目指している。

<第3部>

パネルディスカッション

テーマ「民主導で考える地域（商店街）の未来」

パネリスト：鈴木淳之氏

尾上亮介氏（舞鶴高専）

竹山 真氏（舞鶴市）

藤原隆一氏（舞鶴東自治会連合会会長、中浜区区长）

吉森則行氏（マルケイ三条店営業部長）

コーディネーター：杉岡秀紀氏（福知山公立大学地域経営学部准教授）

○第1部・第2部の報告について

杉岡／第1部の高専のアンケートでは、地域内のニーズが多様であることが分かった。これからは、誰にむけて地域の活動を行っていくかがポイントとなる。また、これからのまちづくり拠点として具体的提案がされたことは特徴的だった。

第2部の鈴木さんのお話では、まずエンジンとなる人、組織、拠点があることが示された。次に、使える資源をとことん使っている。そこでは全員賛成にならなくてもやっているとのことだった。スタッフの皆さんは副業をもっている、パラレルキャリアということに特徴がある。また、まちづくり会社の前に協議会をつくって活動してきているなど、地域を巻き込んで進めてきているということだった。

パネリストの皆さんには、まずはお二人の報告について感想をお聞きしたい。

鈴木／白川でもまずは調査から入った。まちの拠点は誰もが気軽に楽しめることが大切だ。人脈の広がり方が違ってくる。まちづくりや社会環境に関心のある人が増えている。それらの人たちを受け入れる土壌があるということが重要。

尾上／学生の報告では、まちづくり拠点として実業会館という場を提案した。実際にできるかどうかは別だが、思い切って提案することで動いていくことも多い。

鈴木さんの報告について。古川町商店街はいい意味でこじんまりしている。地元の人たちの匂いがする。地域の人たちも巻き込んで様々な人たちが混じりあったものをつくっている。「白川くらし」は魅力的だ。もともとあるものと融和する、混じりあうことでより魅力が増していく。舞鶴も地元を巻き込んで観光を盛り上げていくという点ではとても参考になると感じた。

竹山／第1部のアンケート結果については、価値観の多様化が



▲尾上亮介氏

進んでいることがよく分かった。第2部の白川では地域と観光をミックスしていることが印象的だった。これまでの行政の取り組みとしては、商店街、観光などそれぞれの分野ごとの施策だった。そういった方法が通じなくなっている。また行政主導で進めることも行き詰まっている。社会全体の動きの中で税の再投資をどのように行うのがいいのか、皆さんと一緒に考えていきたい。



▲竹山真氏

藤原／地方創生プロジェクトが進んでいることをこれまで知らなかった。このような活動に喜びを感じると同時に、もっと早くに声をかけて欲しかったという思いがある。今回のアンケート調査をきっかけに趣旨を理解することができた。

駅ウラにショッピングセンターができて商店街が大きく変わった。何とかもっと活性化して欲しいし、このような活動が高まっていることを応援したい。商店街と地域は切っても切れない関係にある。これからは自治会の中にも組み込んでいきたい。

杉岡／かつては自治会の中に商店街が組み込まれていた。住民自治は全員参加だが、まちづくりはやりたい人がやる。これまでは両者の接点がなかなかつくれなかったが、これからは協力してやっていくということだろう。

吉森／会社の方針として自分のところだけ儲かればいいと考えていないということがある。お金をいかにして商店街におとしてもらうかを考えながらビジネスを行っている。人が集まる場所づくりが基本であろうということでスーパーホテルを建てることになった。ここに来ることで、商店街で消費をしてもらおうとしている。

○地域創生の未来にむけて

鈴木／それぞれの団体の思惑は違うが、このエリアを豊かにしたいとの思いは同じ。まちづくり会社はその先頭にたっていきたい。

杉岡／実業会館での拠点づくりは実現に向けてのハードルが高いという声もあるが、実現にむけての取り組みと課題について教えて欲しい。

尾上／課題は費用の問題と誰が中心になって進めるかということ。実業会という組織が管理しているが、今後の方針とまちづくりを進める組織とがどれだけ協力できるかということになる。「心意気」ということもあるだろう。高専としての役割も果たしていきたい。

杉岡／行政の役割としてどのようなことができると思うか。

竹山／行政という冠がどのような武器になるのだろうと考えている。これまでは個人の物件については一歩ひいていたが、壁を取り除く必要があるのであれば社会性の中で判断していく必要があるのではないかと。一件だけでは利益誘導になるかもしれないが、数件になると行政としても取り組みやすい。

杉岡／京都市・東山区の役割について教えて欲しい。

鈴木／白川の舗装は市の事業。必要に応じて連携をとっている。
行政といい関係を築くことは大切。例えば、ゲストハウスをつくる時も補助金の情報などは行政から教えてもらった。

杉岡／商店街と自治会の距離を近づけるといことについて、自治会全体の合意形成について率直に教えて欲しい。
藤原／三条通り、大門通り、八島通りの壁にクリーン作戦のポスターを貼っている。6年前に、このまちをよくするための取り組みとして、きれいなまちにしようということになった。また、花いっぱい運動としてステッカーとして貼っているが、プランターに花を植えて商店街にも並べて、自治会としても応援してきた。

杉岡／インバウンドのお客さんと地元の皆さんと交流できる仕掛けについてどのように考えているか。

吉森／クルーズ船がきても京都市に行ってしまうので、船に乗る前に舞鶴のホテルに泊まってもらうことを考えている。ホテル建設にあたっては約 20 社と面談したが、スーパーホテルはまちの活性化について熱心だった。商店街もホテルができることで、飲食店に人を集めてまちを明るくしたい。



▲藤原隆一氏



▲吉森則行氏

○質疑応答

質問／赤れんがを復興するまでに 20 年以上かかった。東舞鶴は自衛官のまちなのでミュージアムをつくったり、五条公園に観光バスを入れるなどして人の流れとつくって欲しい。また、子どもを主体にしたまちづくりを進めて欲しいがどうでしょうか。

杉岡／今日は民主導のまちづくりについて考えてきた。これまでは私益から共益について議論されてきたが、これからはさらに社会益を追求する時代になる。舞鶴はそのことを考えてきし、様々な取り組みを行ってきた。いま必要なのは色々な主体をつなぐこと。誰がそれを担うのかということなのだろう。



▲杉岡秀紀氏

【地域創生×商店街×大学フォーラム】

舞鶴×商店街

このフォーラムは
参加無料です。
お気軽にご来場ください

地方創生の未来図をどうする！

日時 **3月30日(金)**
19:00~21:00 [開場18:50]

場所 **五条立体駐車場
1Fホール(旧マイコム)**
〒625-0036 京都府舞鶴市字浜606
TEL:0773-64-4844

◆第1部 (19:00~19:40)

市民が考える東舞鶴中心市街地の未来
(舞鶴高専によるアンケート発表・舞鶴高専尾上ゼミ)

◆第2部 (19:40~20:10)

基調講演
地域の発展と商店街の繁栄を目指して
～白川まちづくり会社～
鈴木 淳之 氏



プロフィール

名古屋生まれ。2014年5月より古川町商店街活性化プロジェクトに参画。2016年白川まちづくり協議会副会長。2017年商店街副理事長、株式会社白川まちづくり会社副社長。魅力あふれる白川エリアを、元気で豊かに活性化したいと情熱を注いでいます。



白川まちづくり会社

◆第3部 (20:10~) パネルディスカッション

テーマ「民主導で考える地域(商店街)の未来」

パネリスト

鈴木淳之
舞鶴市
舞鶴高専 尾上亮介
藤原隆一 舞鶴東自治連合会会長、中浜区区长
吉森剛行 マルケイ三業店 営業部長、元産経新聞記者
記者団、招待客



杉岡 秀紀

短歌山立大学准教授

平成13年 短歌山立大学経済学部卒業

平成17年 短歌山立大学大学院経済学研究科修了

平成20年 内閣府第1回地方創生推進本部事務局参事

平成21年 1-11 短歌山立大学公共政策学部長

平成24年 京都府立大学公共政策学部長

平成27年 舞鶴市長

主催:協同組合東舞鶴商店街連盟・特定非営利活動法人MCA・舞鶴高専
協力:京都府・舞鶴東自治連合会

お問い合わせ 地方創生プラン策定委員会 事務局 ☎0773-62-0708 (土田)

平成 29 年度 商店街創生支援プロジェクト事業業務（協同組合東舞鶴商店街連盟）報告書
平成 30（2018）年 3 月

特定非営利活動法人 MCA